

GALILEI

FUKUSHIMA GALILEI CO. LTD.

フクシマガリレイ株式会社
統合報告書 2023

GALILEI
Be cool, Be alive.

フクシマガリレイ株式会社

FUKUSHIMA GALILEI CO. LTD.

〒555-0011 大阪府大阪市西淀川区竹島2-6-18
Tel. 06-6477-2011 / Fax. 06-6477-0755
www.galilei.co.jp

(2023-11)D



GALILEI

Be cool, Be alive.

環境・安全・安心をテーマに
「幸せ創造企業」を目指します

ガリレイグループの企業理念

第1項 生活者の幸せ	わたしたちは、環境・安全・安心をテーマにお客様と協働し、生活者の「幸せ」に寄与することを基本使命とします。
第2項 お客様の幸せ	わたしたちは、独自の技術とシステムにより、フードビジネスに新しい価値を創造し、お客様の「幸せ」に貢献することを基本使命とします。
第3項 社員の幸せ	わたしたちは、自己責任能力を高め、自身と社業の成長を通じて、物心両面の「幸せ」を追求することを基本使命とします。
第4項 株主・お取引先の幸せ	わたしたちは、将来への目標を共有し、常に業績向上に努め株主やお取引先に「幸せ」を提供することを基本使命とします。

CONTENTS

03-04	パーパス
05-06	コーポレートストーリー
07-08	財務・非財務ハイライト
09-12	トップ対談
13-14	価値創造モデル
15-16	コアコンピタンス
17-20	事業概況・売上高推移
21-22	サステナビリティの取り組み
23-26	マテリアリティ
27-30	座談会

ESGの取り組み

31	生活者のくらしを向上
32	フードロスの低減
33	持続可能なサプライチェーンの実現
34	健康的な生活への支援
35-40	脱炭素社会の実現
41-42	地域社会との共生
43-44	人材の育成
45-46	多様な人材の活躍
47-49	コーポレート・ガバナンス
50	会社概要・株式情報

企業行動憲章

食の安全・安心

わたしたちは食の安全・安心を何よりも優先し、食生活の品質向上に寄与し、健康的で豊かな「食」のインフラを支え続けます。

環境保護

わたしたちは地球環境にやさしい事業活動を経営課題の一つとして認識し、環境への影響を配慮した取り組みを継続的かつ積極的に推進します。

グローバル

わたしたちは地球的な視点から柔軟に発想し、世界市場での成長と拡大を目指すとともに、日本の優れた食文化や食の品質を保つシステムの現地化を推進します。

公平・公正な取引

わたしたちはお客さま及び取引先さまと対等のパートナーとして、すべてのプロセスにおいてフェアな取引を徹底します。

情報開示

わたしたちは社会に開かれた企業として、株主・投資家はもとより、広く社会に対し企業情報の適時・適正な開示に努めます。

反社会的勢力への姿勢

わたしたちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力・団体との関係は一切持ちません。

社員行動指針

- 食の安全・安心 ———— いつでもどこでも食の安全・安心を
- 顧客志向・顧客重視 ———— お客さまにどっぷり浸かる
- チームワーク ———— チームGALILEIで限界に挑戦
- 独創性・先見性 ———— 未来に向かって大胆に挑戦
- 教育 ———— 人を育てて、自分も磨く
- ルール厳守 ———— 当たり前を、当たり前

お客さま満足の追求

わたしたちは「お客さま第一」を念頭に、独創的な技術開発にチャレンジし、お客さまの信頼と満足を得る高品質な製品とサービスを提供します。

社会貢献

わたしたちは「食」を通じて生活者が幸せになることを目指して、本業及び本業以外の活動を通じて持続可能な社会への貢献を果たしていきます。

法令遵守

国内外の関係法令、国際ルールを遵守することはもとより、GALILEIの企業倫理に沿った透明で公正な企業活動を行います。

従業員の尊重

わたしたちは社員の豊かな生活の保持に努力するとともに、社員の多様性と個性を認め、挑戦と革新のマインドを醸成する職場環境の形成と人材教育に積極的に取り組みます。

情報管理

わたしたちは当社及び他社の機密情報や、お客さま・社員の個人情報は厳正に管理し、これを第三者に漏洩せず、また会社の業務以外の目的に使用しません。

編集方針

株主・投資家ならびにステークホルダーの皆様へ、財務・非財務の両面から、ガリレイグループの中長期的な価値創造のプロセスおよび成長戦略をお伝えすることを目的としています。

報告対象期間

2022年度(2022年4月1日~2023年3月31日)
一部、対象期間外の活動を掲載しております。

報告対象組織

フクシマガリレイ株式会社および連結子会社

発行

2023年11月

2019年に「ガリレイ」へ事業ブランドを統一してから4年。これまで大切にしてきたガリレイグループのありたい姿を基盤としながら、わたしたちのパーパス(存在意義)を新たに定めました。“食といのちの未来を拓く”というパーパスには、生活者が生きるための基本である「食」の安全・安心を守り続けることはもちろん、わたしたち一人ひとりの「いのち」、そして地球の「いのち」も含まれています。わたしたちはこれからも、パーパスの実現を目指して、より多くの皆様とともに、社会課題の解決に貢献していきたいと考えています。



Our Purpose | 存在意義

食といのちの未来を拓く

おいしさの未来を拓く。

それは、食のイノベーションを通じて、安全・安心な食の楽しさを広げながら、おいしさの喜びと感動をアップデートし続けること。

ゆたかさの未来を拓く。

それは、卓越した冷やす技術をさらに進化させ、世界中の食生活そのものを向上しながら、毎日の暮らしのすこやかさ、ゆたかさにご貢献すること。

いのちの未来を拓く。

それは、食というフィールドにとどまらず、人のいのち、地球のすべてのいのちが、いきいきと健康的である生活や社会を実現すること。

しあわせの未来を拓く。

それは、自らが満ち足りているだけでなく、身近な人をしあわせにすることからはじまり、やがて世界中の人々のしあわせを叶えること。

わたしたちにできること、わたしたちがやるべきことは、まだまだある。

わたしたちガリレイグループは、より良い未来への新しい可能性を拓いていきます。

For Our Future

価値創造の領域拡大とともに成長を続ける ガリレイグループ



社会的課題・ニーズの変遷

1960-1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	2020年代・FUTURE
戦後復興と経済成長に伴い 外食チェーンなどの 飲食店が増加	バブル景気に後押しされ 生活者の消費が拡大 都市機能・科学技術が進歩	病原菌O-157による 集団食中毒などが発生 食品の安全性に関心が集まる	食中毒事件や食品偽装 国内初のBSEなど 「食」の安全神話が崩壊	東日本大震災などの 天災地変が全国的に相次ぐ 省エネ・エコが叫ばれる	テクノロジーの進歩により デジタル化・IoT化の波が おとずれる

ガリレイグループのソリューション

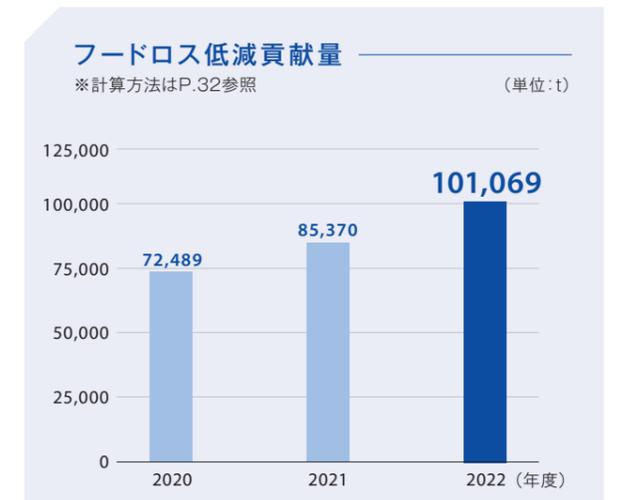
業務用冷凍冷蔵庫・ショーケースの製造を 主力事業化	生産性の強化へ大規模な設備投資を実施 増加する受注へ対応できる体制へ	冷凍冷蔵技術を医療分野にも応用 温度コントロールの専門メーカーへ
1962 冷凍冷蔵ショーケース POSシリーズ 	1984 岡山工場を新設 ERシリーズ量産開始 	1995 滋賀工場を新設 大証2部上場 1998 プラストチラー発売 1999 理化学・医療機器分野へ進出
1962年 業界初の規格冷蔵庫 ER型を開発・量産化を開始	1984年 岡山工場を新設 ERシリーズ量産開始	1995年 滋賀工場を新設 大証2部上場 1998年 プラストチラー発売 1999年 理化学・医療機器分野へ進出

食の安心・安全を守るために 独自のソリューション開発に注力	企業間連携を強め事業領域を拡大 より幅広い提案が可能に	未来に向けてブランド・社名・社屋を刷新 グループシナジーで業績拡大を図る
2001 Snet24 	2013 FSP株式会社 株式会社 省研 	2019 GALILEI Be cool, Be alive.
2009 高橋工業株式会社 	2017 GALILEI 	
2001年 フクシマSネットを開始 2005年 東証1部上場 2006年 岡山第2工場を新設 2009年 高橋工業(現 タカハシガリレイ)が フクシマグループに	2013年 FSP(現 ガリレイパネルクリエイト)／ 省研(現 ショウケンガリレイ)が フクシマグループに 2017年 フクシマ実業団女子テニス部創部 フクシマグループに	2019年 本社 新社屋完成 社名変更ガリレイグループへ 2022年 福島 裕、福島 豪、代表取締役を2名体制に パーパスを新たに策定

財務ハイライト



非財務ハイライト



新たに掲げたパーパスとマテリアリティが、ガリレイをさらに強固な組織にする

2022年6月に代表取締役を2名体制とし、新たなスタートを切ったフクシマガリレイ株式会社。

ガリレイグループのパーパス*1とマテリアリティ*2について、

組織に与えた影響やこれからの展望について両代表取締役が語り合いました。

*1 パーパス ▶ P.03-04 *2 マテリアリティ ▶ P.22-30



代表取締役 社長執行役員

福島 豪

代表取締役会長

福島 裕



全社員の羅針盤として掲げた、「食といのちの未来を拓く」というパーパス

社長 2017年にガリレイグループのブランディングプロジェクトが始動した時に、わたしたちの「ありたい姿」をきちんと言語化しておかなければ、社員が困惑してしまうと考えました。「挑戦者」というスタンスは最初から決めていましたが、どの領域の社会課題に挑戦していくのかについては、明確に決めていませんでした。もちろん、創業以来の“食”という分野は外せません。その一方で、本当に食だけでよいのかということを議論しました。例えば、食以外の分野で少しずつお役に立つ機会が増えていたのが、医療・理化学の領域。このメディカルの分野においては、今後も非常に可能性が大きくなると感じていました。その時に出てきたのが、“いのち”というキーワードです。“食のいのち”を守るのはもちろん、健康寿命を延ばすという“人のいのち”、そして、地球温暖化の抑制という“地球のいのち”にど真剣に向き合うこともわたしたちの使命だと考え、「食といのちの未来を拓く挑戦者」という言葉をありたい姿として掲げました。そのありたい姿を社長就任時に改めてわたしたちの存在意義として定義し直し、「食のいのちと未来を拓く」というパーパスを新たに策定しました。

会長 そのパーパスを策定するまで、わたしが社長を務めた30年間は5年ごとにビジョンを打ち出していました。そし

て、「次のビジョンをどうしようか」と考えていた時に発足したのがブランディングプロジェクトです。このプロジェクトでは若いメンバーが中心となり、わたしがこれまで考えてきたビジョンを、さらに一歩先を見据えた形にしてくれました。その中で生まれた「食といのちの未来を拓く」という言葉は、これまでのビジョン経営を超える大きな指針になったと思っています。掲げてきたビジョンが普遍的なパーパスに昇華されたという印象です。また、社員自身が関わって作ったことにも大きな意味があります。社員それぞれに、当事者意識が強くなる。次は2,300人のグループ社員が、この言葉を一人ひとり深掘りしていけると良いと思います。

社長 当時はグループ会社の人たちも加わり、グループ一体となって議論をしました。やはり、グループで力を発揮しないと、この“いのち”の部分にコミットできないので。

会長 “いのち”という言葉を入れたことに、非常に大きな意義を感じます。これまでの食の分野を軸としながらも、“いのち”という言葉を入れることで事業に厚みを感じます。

パーパス実現の具体として策定された8つのマテリアリティ

会長 近年、企業の社会における存在意義への関心がより高まっていますが、わたしがその重要性に気付いたの

は、今から20年前のことでした。わたしたちのショーケースを導入いただいたスーパーマーケットのオープンに合わせてご挨拶へ伺った時のことです。そのスーパーマーケットでは、ショーケース以外にも当社の製品であるRO水自動販売機も置いていただきましたが、その機械の前には、行列ができていました。並んでいたのはお母さんたちで、ミルクを作る水としてRO水を利用しているとのことでした。その光景に衝撃を受けたのです。わたしたちの製品が、こんなにも生活者の役に立っているのだと。それからすぐ企業理念に「生活者の幸せ」という言葉を加えました。ここ10年程はESG経営の重要性が謳われるようになり、ますますソーシャルな部分が評価される世の中になると感じています。これからは社会課題の解決と事業が一致しなければいけない。そうした意味で、マテリアリティの特定は必要不可欠です。

社長 わたし自身も社会課題に対峙し続けることが、これからの経営そのものになり、会社の存在意義につながっていくということを確認しています。社会課題に対して新しい指標や目標を見つけていくことこそが、新しい事業を営んでいくことになるはずですよ。

会長 社員の指針という側面においても、パーパスやマテリアリティを明確にすることは非常に重要なこと。ゼロコールカンパニーや冷媒漏れ10年保証などは、トップダウンではなく社員の声から生まれたものです。それは、み

んなが一つの指針に共鳴し、一人ひとりが自主的に行動できる環境になっている証です。この指針が今後のガリレイグループをより強固なものにしてくれると思います。

社長 一方で、わたしたちのグループだけでは達成できない目標もあります。今回、マテリアリティとして8つの項目を特定しました。中でも最も重要だと考えているのは「生活者のくらしを向上」という項目です。例えば、これは調理法や栄養バランスを探求するということが挙げられますが、ガリレイグループだけで成し遂げられるものではありません。お客様やMILAB（ミラボ P.31参照）を利用される方、スタートアップ企業の方と協業していくことも重要なことだと考えています。そのためにMILABの拡張にも取り掛かりますし、関わる人材も増やす予定です。

ガリレイグループの強みである“人”が、さらに強化されたことを実感した1年

社長 この1年、さまざまな取り組みを行ってきました。その中で感じたことは、ガリレイグループの最大の強みは、やはり“人”であるということです。今回のマテリアリティの特定においても、プロジェクトチームのメンバーが一人ひとり自分事として考え、しっかり形にしてくれています。会長やわたしが方向性を示したり、アドバイスをしたりす



ることもありますが、メンバーが作ったものをそのまま採用することも少なくありません。わたしの想いを伝えると、しっかり形にしてくれるので非常に心強く思っています。

会長 確かに実行力や責任感といった点で社員のレベルが高まっているということは、わたしも感じていますね。それは、社長がこれまでにないガリレイグループの良さを引き出していることに他なりません。良いものは伸ばして、さらに新しいものを付け加えていくという方針が非常に前向きで、ベテラン社員も若手社員も「みんなで一緒にやっぺいこう!」という勢いができています。

社長 あと、この1年でさらにグループシナジーが強化されたという実感もあります。2023年は「FOOMA JAPAN」をはじめ、いくつかの展示会にグループで出展しました。その時、会社の枠を超えた一体感を非常に強く感じました。結果として展示会を通して多くの引き合いをいただき、大きな手応えがありました。

会長 グループ営業を強化したのも大きかったですね。

社長 各社の情報が交差することで、二次元だった情報が三次元になって浮かび上がってくるイメージです。こうした動きは意図的に行わなければ実行できないので、各社のメンバーが定期的集まる組織を作ったことで、人と情報の交流が非常に活発になっているのだと思います。

会長 グループ会社同士の垣根が一気に低くなりましたね。それが、お客様にとっても利点になり、「すべてガリレイに任せておけばいいんだ」という雰囲気ができ始めたと感じます。それこそが、ガリレイグループの真骨頂です。

人づくりと社会貢献を加速させ、ガリレイグループを次のステージへ

社長 今取り組んでいるプロジェクト、今後取り組みたいプロジェクトを進めていけば、着実にオンリーワン企業に近づけると感じています。「ガリレイと仕事がしたい!」と思われる企業になることが目標であり、各社、各事業がそうなりつつあります。この流れを加速させるために、しっかり戦略的な投資をして、勢いを緩めることなく進めていく考えです。

会長 前述したように、やはりガリレイの強みは“人”。人を育てるために、もっと各社を巻き込んで、一緒に事業を育てていくことが大切です。事業が育てば人が育ち、そして、国内外を問わず地域に根付いていくことで、自ずと地域貢献にもつながると考えています。そのために、パーパス、マテリアリティを全社員で意識しながら、グループ丸となって進んでいきます。

価値創造モデル

わたしたちガリレイグループは、生活に不可欠な食のライフラインを支える企業として、世界中の食生活品質向上を図るために事業領域の拡大と冷やす技術をさらに進化させていきます。スマートシフトをより加速させ、成長を続けながら、世界におけるフードビジネスのリーディングカンパニーとして、革新的なイノベーションを創造し続け、持続可能な社会の実現に貢献し、中長期的な企業価値の向上を目指します。



食のフィールドを川上から川下まで――

グループの力を結集し、
冷やす力とエンジニアリング力でトータルサポート

長年培ってきた“冷やす力”と高度な“エンジニアリング力”で、
お客様の幅広いニーズにも応え、生活者の「食」の安全・安心を守ります。
グループ各社それぞれの“らしざ”と“コア技術”が融合して生まれるシナジーが、
「食」の川上から川中、川下までをトータルサポートします。

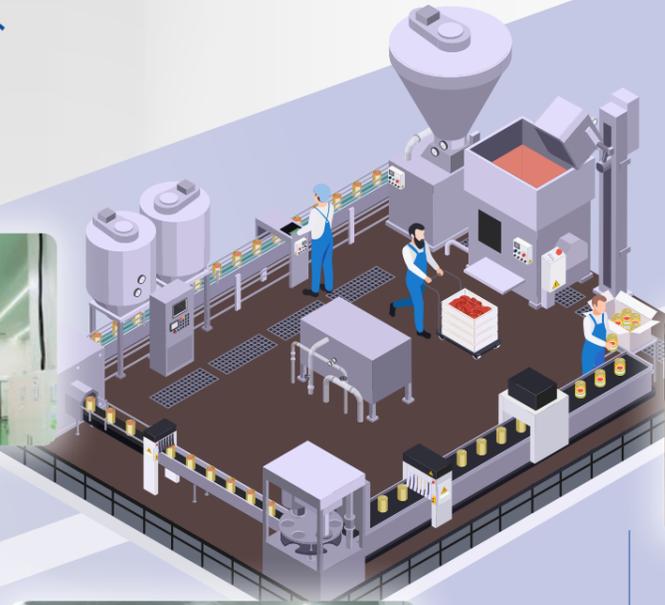
第1次産業

[農業・漁業]

食材の鮮度を保つとともに生産段階でのフードロスを削減し、資源のムダを減らすことにより社会全体のカーボンニュートラルにも貢献しています。



ガリレイパネルクリエイト



ショウケンガリレイ



タカハシガリレイ

第2次産業

[製造業・倉庫業]

食品工場やセントラルキッチン、低温物流倉庫などに向けてトンネルフリーザーなどの急速冷却・凍結装置や環境、制御システムを提供。食品加工プロセス全体の衛生管理や省人化、また賞味期限延長によるフードロス削減にも貢献しています。



フクシマガリレイ

第3次産業

[外食産業・小売業]

業務用冷凍冷蔵庫・ショーケース合わせて年間約130,000台もの製品を出荷。お店や家庭の食卓を彩る食の安全・安心を支えています。

冷凍冷蔵庫事業

外食産業の新しいニーズにニューノーマルな製品づくりで応える
1951年の創業以来続くフクシマガリレイの「DNA事業」。省エネ性・温度コントロール技術・ユーザビリティにこだわった製品を数多く揃えています。



ノンフロンタテ型業務用冷凍冷蔵庫
The Galilei Xシリーズ
冷媒を地球温暖化係数 (GWP) の極めて低いノンフロン冷媒R1234yf (GWP: 1) を採用。従来機種R404A (GWP: 3920) やR134a (GWP: 1430) と比べ、地球環境に優しい製品。

ショーケース事業

ユーザーインのものづくりで未来の店舗を創造する
全国のスーパーマーケットやコンビニエンスストアに並ぶ商品の鮮度を守るだけでなく、ITや高性能機器を駆使して魅力的で快適な店舗づくりを支えています。



CO₂冷媒 冷凍機内蔵型リーチインショーケース
自然冷媒であるCO₂冷媒 (R744) を採用。CO₂冷媒はGWP (地球温暖化係数) が1。燃焼性がなく、安全性も兼ね備えた冷媒。

エンジニアリング事業

グループシナジーを最大限に活かしより良い未来を創造する
冷凍冷蔵技術を中心にグループ各社の製品をフレキシブルに活用し、食品工場を始めとする施設全体のトータルソリューションを実践しています。



設備プランニング

ガリレイパネルクリエイト株式会社

パネル技術と設計施工技術を駆使した最適なパネルソリューションを
高性能断熱パネルの技術とシステムエンジニアリングで、食品加工工場、クリーンルームなどに最適な「冷凍冷蔵空間」「クリーンな作業空間」を提供しています。



ノンフロン断熱パネル「econe」シリーズ

海外事業

Japan Qualityでアジア諸国に食の安全と安心を
中国・東南アジア11の国と地域に拠点を置き、ジャバングオリティへの信頼を武器に、日系企業の海外進出サポートや現地顧客への製品販売を展開しています。

FMS事業

社内外との連携を深め医療・ライフサイエンスの発展に貢献する
医療・研究分野に特化したメディカル向け製品を取り扱う事業で、人々の「健康」や「いのち」を守る場面に直結するアプローチを国内外で展開しています。



ノンフロン薬用保冷庫
MediFridgeシリーズ
FMS-125GSX

サービス事業

デジタルと技術の両側面からメンテナンスの質を高める
製品を設置するお客様に寄り添い、メンテナンスや定期点検などのサポートを行っています。さらに、ITを駆使したサービタイゼーションを推進しています。



スマート診断により「Zero Call Company」を実現

タカハシガリレイ株式会社

一歩先を見据えた製品開発で次の未来を創造する
連続式の急速凍結・冷却装置「トンネルフリーザー」を世界で初めて開発・設計・製造したパイオニアです。創業から60年の実績と国内シェアトップクラスを誇ります。



スパイラルフリーザー
面積当たりの生産量No.1、大量生産向けのフリーザー

ショウケンガリレイ株式会社

お客様にとって最適な生産ラインを一気通貫で構築する
1968年の創業以来、食品工場向け機械設備・駆動装置の専門メーカーとして、数多くの生産ライン・物流ラインの自動化・省人化・省力化を実現しています。



各種ロボット
食品工場の人手不足対策にロボット導入が増加。製造ラインに合った最適なロボットのレイアウト構想から据付導入までトータルで提案。



タイ工場製 UEシリーズ
PLUG-IN type
GLASS DOOR CABINET

事業概況

冷凍冷蔵庫事業

REFRIGERATOR AND FREEZER OPERATIONS



2022年度レビュー

2020年から続くコロナ禍での飲食店の業態変化に伴い、店舗での食品加工やテイクアウト需要が継続しました。加えて、下期からは新型コロナウイルス感染症に対する政府の行動規制が緩和されたことにより、外食産業の需要が回復傾向となりました。その結果、業績はコロナ禍前を超える結果となりました。

事業の強みと今後の展望

2023年度は業界初の取り組みとして、タテ型業務用冷凍冷蔵庫および小型製氷機のR1234yf (GWP: 1) を採用したノンフロン仕様へのモデルチェンジを発表しました。地球温暖化係数が極めて低い同冷媒を用いることで、脱炭素社会の実現に向け取り組んでいきます。また、R1234yfは微燃性のため、安全に取り扱え、使用現場にてその場で修理・点検が可能です。環境保全への貢献と安全性を兼ね備えた製品の拡販をお客様にお役立ちしていきます。

サービス事業

SERVICE OPERATIONS



2022年度レビュー

2021年度より継続してスーパーマーケットやコンビニエンスストア、ドラッグストア向けのショーケースのメンテナンス、保守契約の売上が増加しました。加えて、下期以降は外食産業の需要が回復傾向にあり、冷凍冷蔵庫などのメンテナンスの売上も増加し、2021年度を上回る売上で堅調に推移しました。工事・サービス人員が増加したことで、ますます営業・工事・サービスが一体となることができ、販売からメンテナンスまで一貫して担える当社の強みが発揮された1年となりました。

事業の強みと今後の展望

昨今の取り組みとして、故障の前兆を検知し、故障前に処置する「Zero Call Company」を進めています。その中核システム「G-compass」が2023年度に本格稼働しました。ショーケースなどの運転情報を受け取り、スマート診断の実施結果をフィードバックすることで、診断精度向上を図っています。今後もDXを推進し、「直す」から「止めない」にスタイルチェンジして、お客様によりスムーズなメンテナンスを提供できるよう取り組んでいきます。また、「冷媒漏れ10年保証」の確立に向け、工事・サービスの協力会社との関係性強化を目的として、2022年12月に「GALILEI Contractor Hub」を開催しました。安心して当社製品をご使用いただき、かつ、環境保全にも貢献できるよう取り組んでいきます。

ショーケース事業

SHOWCASE OPERATIONS



2022年度レビュー

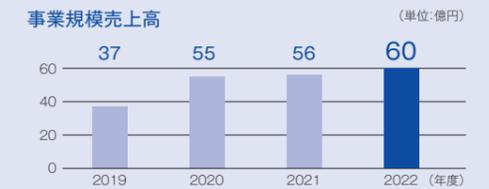
第1四半期は、発泡液不足による一部受注停止の影響により、主にスーパーマーケットやドラッグストア向けの販売が減少しました。しかし、第2四半期以降は、通常受注へと戻り、お客様へ製品を届けることができました。また、スーパーマーケットでは建築、エネルギーコストの増加により改装などの設備投資需要に落ち着きが見られました。一方で、「Dramatic Future 2050」の取り組みとして自然冷媒を使用したショーケースの販売が、コンビニエンスストアを中心に堅調に推移しました。

事業の強みと今後の展望

昨今、小売流通業界で課題となっているエネルギーコスト高騰に対し、当社は省エネ性が高く環境負荷の低い「ノンフロン冷凍プラグインショーケース」の販売や「CO₂冷媒 冷凍機内蔵型リーチインショーケース」の機種バリエーション追加に取り組んでいます。また、次世代空調管理システムとして、空調、湿度、ショーケースの制御を適切に行い、店内環境を快適にしながら空間全体で省エネを目指す「ガリレイエアテックシステム」の提案・導入を継続して進めていきます。今後も環境保全と省エネ性の追求でお客様の課題解決に貢献していきます。

エンジニアリング事業

ENGINEERING OPERATIONS



2022年度レビュー

2021年度より続くコンビニエンスストア向け冷凍工場案件や、スーパーマーケット向けプロセスセンターの建設需要が堅調に推移しました。また、物流についても生鮮EC（ネットスーパー）や物流の2024年問題を背景として、需要がより旺盛になりました。お客様の元で発生している人手不足や、物流の集約化・合理化のニーズに対し、自社で設計・施工からメンテナンスまでを担うことができる強みを活かして、お客様の課題解決に貢献しました。

事業の強みと今後の展望

エンジニアリング事業で担う、大型倉庫や食品工場での冷凍冷蔵設備と空調のトータルエンジニアリングを実現するため、2023年1月に空調衛生設備の設計・施工・メンテナンスを得意とする不二熱学工業株式会社と業務提携契約を締結しました。今後、冷凍冷蔵技術とのコラボレーションで新しい価値を創造していきます。

FMS事業

MEDICAL SCIENCE OPERATIONS



2022年度レビュー

2020年度から2021年度にかけて続いた新型コロナウイルスのワクチンや検査薬を保管する薬用保冷庫、メディカルフリーザーなどの需要が下落しました。また、2021年度の再生医療に関わる大型案件や薬品卸向けのプレハブ庫も売上が減少したため、業績が前年を大きく下回る結果となりました。製品開発の面では、2022年11月に「ノンフロン薬用保冷庫」へのモデルチェンジを実施し、脱炭素化に向けた取り組みを進めています。

事業の強みと今後の展望

「Dramatic Future 2050」の取り組みである自然冷媒への転換を、医療・理化学分野でも進めています。2023年冬にメディカルフリーザーのノンフロン仕様へのモデルチェンジを予定しています。また、当社は2024年開業予定の「未来医療国際拠点」(大阪市北区中之島)に入居を予定しています。今後、同拠点のコンセプトである再生医療をベースとした最先端の「未来医療」の産業化推進および、その提供による国際貢献に、入居予定企業と取り組んでいきます。

ガリレイパネル クリエイティブ株式会社

GALILEI PANEL CREATE CO. LTD.



2022年度レビュー

2021年度のうちから大型案件の受注を積み重ねており、発泡液不足の影響で一時的に売上が減少したもののスーパーマーケットや小規模の食品工場、ホテルなどへの売上が回復し、食品工場、コンビニエンスストア、物流センターなどへは年間を通して売上が堅調に推移しました。近年提案を強化してきた半導体工場、医薬品などの非冷分野のクリーンルームの実績も伸長しました。

事業の強みと今後の展望

パネルの設計、製造から施工に至るまで、一貫した体制で請け負い、ガリレイグループ全体で多様な販路に向け、冷凍冷蔵設備工事を含めたトータルコーディネートを行うことができる強みがあります。以前より取り組みを強化しているクリーンルーム市場での、半導体工場や医薬品関連の案件も増加傾向にあります。特に半導体分野については、台湾などの半導体メーカーが日本に進出し、生産工場が国内回帰する動きから、今後需要が継続して増加する見込みです。

事業別の売上高推移

※決算説明資料等の売上区分で表記

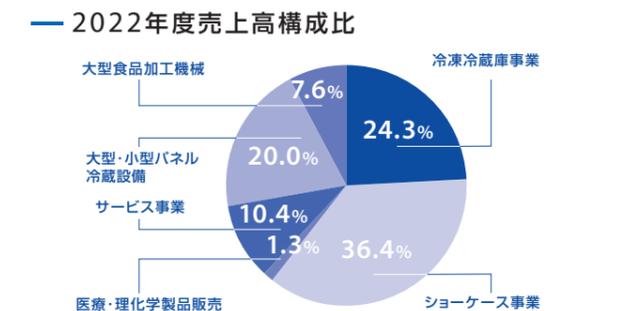


※大型・小型パネル冷蔵設備は、主にエンジニアリング事業とガリレイパネルクリエイトの売上高の合計です。

※大型食品加工機械は、主にタカハシガリレイ（サービスを除く）とショウケンガリレイの売上高の合計です。



※海外事業の売上高は、冷凍冷蔵庫事業及びショーケース事業の売上高に含まれます。



タカハシガリレイ株式会社

TAKAHASHI GALILEI CO. LTD.



2022年度レビュー

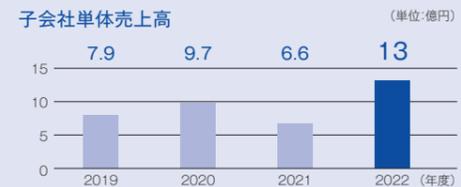
材料費高騰の影響により、一部ユーザーには設備投資が慎重な傾向が見られましたが、食品メーカーやコンビニエンスストアでの冷凍食品および冷凍弁当の需要が継続しました。さらに、主力であるトンネルフリーザーに加え、より幅広いニーズに応えられるスパイラルフリーザーの販売も堅調に推移したことにより、2021年度並みの売上となりました。

事業の強みと今後の展望

ガリレイグループ本社内MILAB（ミラボ）にある食品工場研究室を活用し、従来から培ってきたソリューション型のビジネスモデルで、お客様に最適な冷凍技術や機器提案を行っています。昨今の自然冷媒需要の高まりを受け、2023年4月よりCO₂冷凍機「NOBRAC（ノブラック）」の本格展開を開始しました。この冷凍機は、トンネルフリーザー・大型冷凍冷蔵庫向けであり、環境負荷低減だけでなく、CO₂冷凍機とフリーザーの統合制御で最大約20%の省エネを実現できます。

ショウケンガリレイ株式会社

SHOKEN GALILEI CO. LTD.



2022年度レビュー

主材料であるステンレス材高騰や、電装部品入手困難などの影響がありました。上期は材料の先行発注を行っていたことでその影響を軽減することができました。また、2021年度より続く冷凍食品需要が堅調に推移したため、ショウケンガリレイ単体で前年比198%のV字回復を達成しました。

事業の強みと今後の展望

今後の注力すべきテーマとして、グループシナジーを発揮するフリーザーの前後装置や、製造工程の搬送設備に加え、搬送領域における包装工程への取り組みである「ロボットSler（システムインテグレータ）」を加速させていきます。また、生産性向上と自動化・省人化設備のテストラボ機能を併せ持ち、従来の2倍の生産スペースとなる新本社工場を建設し、2023年4月に稼働を開始しました。

海外事業

FOREIGN OPERATION



2022年度レビュー

2020年から続くコロナ禍でのロックダウンによる経済情勢から、国内同様に各国とも設備投資が回復傾向となりました。その結果、ほぼすべての販売会社で前年を超える業績となり、海外事業全体で前年比142%のV字回復を達成しました。加えて、タイ工場の生産能力拡大を図るため、生産ラインを増強した結果、製品生産台数も2021年度を超え、堅調に推移しました。今後も製品生産ラインナップを増やし、アジアへの販売拡大を進めていきます。

事業の強みと今後の展望

2022年度は海外事業の業績はV字回復を果たしましたが、今後アフターコロナの中でますます海外市場は成長していくと考えています。海外のお客様にも国内で培った冷凍技術、ジャパングオリティを提供できることが当事業の強みです。その取り組みの一つとして、店舗の省力化・省人化に役立つプラストチャーの海外仕様の開発と販売を予定しています。また、海外事業における2030年までの中期ビジョン「GALILEI Global Vision 2030」を現在策定しています。各国の市場分析や第三国進出などを検討し、海外での事業拡大を目指します。

サステナビリティの取り組み

サステナビリティ基本方針

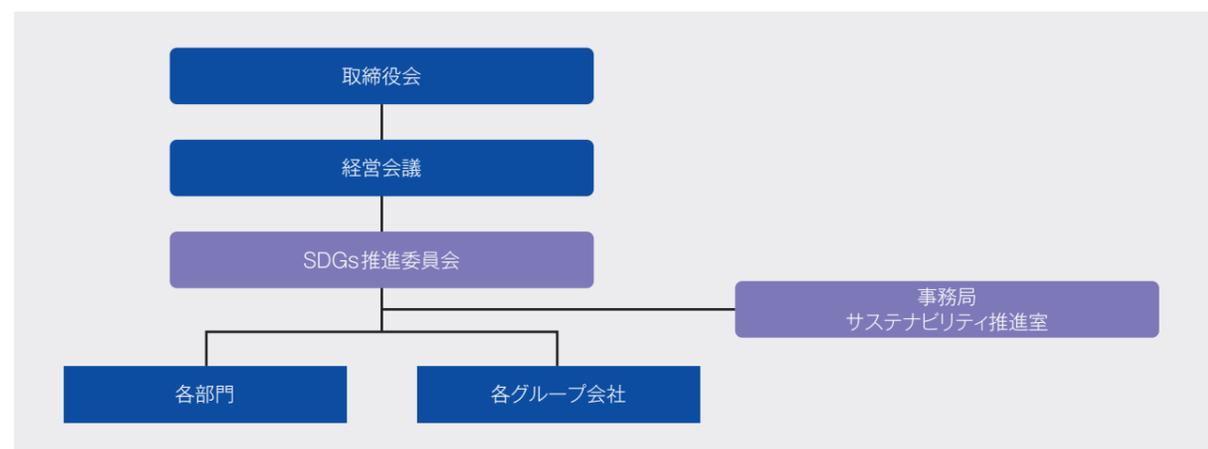
ガリレイグループは、企業理念である「幸せ四則」に掲げる「生活者」、「お客様」、「社員」、「株主・お取引先」の幸せを実現するため、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現と、中長期的な企業価値の向上を目指します。

サステナビリティ推進体制

ガリレイグループ全体でサステナビリティの推進を行うため、2021年6月に代表取締役 社長執行役員を委員長とするSDGs推進委員会を設立しました。本委員会は四半期に一度開催され、サステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」の進捗状況の確認や、地球環境の問題をはじめとする社会課題に対する具体的な取り組みについて審議し、必要に応じて各部門、各グループ会社に指示を行っています。

また、2023年4月には、サステナビリティ、ESGに関する専門の部署として、サステナビリティ推進室を新設しました。各機関と連携し、より一層サステナビリティの推進を加速させるための体制を構築しています。

本体制をもって、経営・事業と一体となってサステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」や、特定したマテリアリティに対する全社的なアクションを進めていきます。



SDGs推進委員会の議題(抜粋)

2023年3月開催(第3回)	2023年7月開催(第4回)
GXリーグの参画について	GX-ETS(GXリーグ)目標値について
TCFD対応について(シナリオ分析、リスクと機会の検討)	CO ₂ 排出量削減貢献量目標値検討
サステナビリティ情報開示スケジュールについて	サステナビリティ情報開示の方針について
「Dramatic Future 2050」進捗状況確認	「Dramatic Future 2050」進捗状況確認

勉強会の実施

2023年2月に、社外取締役 梨岡英理子氏によるサステナビリティに関する勉強会を実施しました。当日は、取締役やSDGs推進委員会のメンバー、管理部門の従業員が中心に参加し、サステナビリティに取り組むことの意義・重要性について学びました。サステナビリティに関する知見が高まり、参加者一人ひとりが社会課題解決について考える良いきっかけとなりました。

マテリアリティの特定

食糧問題、気候変動、ダイバーシティなど、様々な社会課題が取り巻く環境において、ガリレイグループは、事業を通じて社会課題を解決していくことが必要不可欠であると考えています。

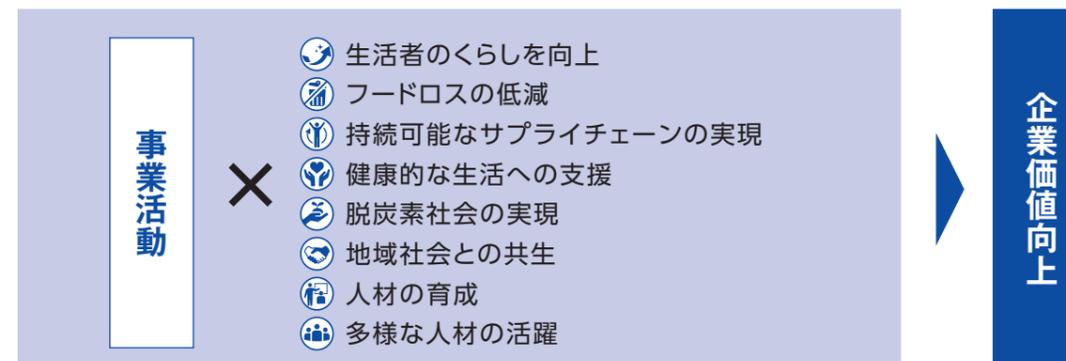
この社会課題に対してガリレイグループとして解決すべき事を明確にするため、2023年9月にマテリアリティを特定しました。また、中長期的に取り組んでいく具体的な取り組みおよび指標・目標を設定しました。

マテリアリティへの取り組みを通じて、ガリレイグループは持続可能な社会と中長期的な企業価値の向上の両立を目指していきます。

マテリアリティ特定のプロセス



マテリアリティと企業価値の向上



マテリアリティと提供価値

ガリレイグループは、“食といのちの未来を拓く”というパーパスと、4つの“ありたい姿”の実現に向けて、グループが取り組むべきマテリアリティを定めました。これらのマテリアリティを通じて、生活者に様々な価値を提供し続けていきます。

Our Purpose | 存在意義

食といのちの未来を拓く



提供価値

マテリアリティ

おいしさの未来を拓く	ゆたかさの未来を拓く	いのちの未来を拓く	しあわせの未来を拓く
<p>おいしさの喜びと感動をアップデート</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 新しい食文化との出会い ■ 食の多様化 ■ 鮮度管理の最適化 	<p>食のライフラインを支えゆたかな暮らしへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 安全・安心な食 ■ 食提供の効率化 ■ コールドチェーンの発展 	<p>地球上すべてのいのちをいきいきと健康的に</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ メディカル・ヘルスケアへの多様なアプローチ ■ 環境負荷低減 ■ CO2排出量削減 	<p>世界中の一人ひとりのしあわせに貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域社会との絆 ■ コールドチェーンを支える人材の育成 ■ 多様な働き方

パーパス実現に向けて、ガリレイグループが取り組むべき重要課題

<p>生活者のくらしを向上</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>フードロスの低減</p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>健康的な生活への支援</p> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>地域社会との共生</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>
	<p>持続可能なサプライチェーンの実現</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>脱炭素社会の実現</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>人材の育成</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p>
			<p>多様な人材の活躍</p> <p>5 ジェンダー平等を促進しよう</p>

Dramatic Future 2050
～誰もがワクワクする未来を拓く、ガリレイグループ～

持続可能な地球環境を次世代に引き渡すことを目的に、2050年までの「カーボン環境ビジョン2050」

環境 Vision 2050

- ① グループ全体で温室効果ガスからの脱却を
- ② 冷媒をはじめ、クールな技術で地球温暖化をゼロに
- ③ 環境と真剣に向き合うお客さまから選ばれる存在に

ニュートラル・脱炭素社会の実現」に向け、「環境ビジョン2050」を掲げています。

環境アクション 2030

- グリーン冷媒への転換
- 冷媒ガス漏洩防止
- 環境性能の高い製品を開発・提供
- CO2排出量削減

©ガリレイグループSDGs宣言は、マテリアリティとしてアップデートいたしました。

特定した8つのマテリアリティ

企業理念	パーパス	ありたい姿	ガリレイの提供価値	社会課題(動向)	マテリアリティ	貢献するSDGs	具体的な取り組み	指標	目標年	目標	実績(2022年)
幸せ四則	生活者の幸せ	おいしさの未来を拓く	食のイノベーションの追求により、新たな食材、調理法、メニュー、食べ方を創出し、おいしさの喜びと感動をアップデートし続ける。	<ul style="list-style-type: none"> ●栄養バランスの確保と豊かな食生活の追求 ●食の多様化、新規食材(代替肉、昆虫食等)への対応 ●調理法、メニュー、食べ方の探求 	 生活者のくらしを向上 ▶P.31		●MILABを活用した産官学連携による共創の推進	●MILAB利用者数	2025年	●10,000人/年	●3,187人/年
							●食のスタートアップ企業育成	●スタートアップ支援数	2030年	●累計30社、2社上場	●8社
		ゆたかさの未来を拓く	食提供の効率化や鮮度保持の革新により、世界中どこでも、誰でも、いつでも、いつまでも、食のゆたかさを享受できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ●飢餓の撲滅 ●人口爆発 ●食品廃棄の増加 ●途上国ではコールドチェーンインフラが未整備 	 フードロスの低減 ▶P.32		●コールドチェーンでの食品の鮮度維持	●製品、サービスを通じたフードロス低減貢献量	2030年	●150,000t/年	●101,069t/年
							●凍結技術で消費期限をより長く				
		いのちの未来を拓く	災害時や極限の環境であっても、食と健康のライフラインが途切れない状態を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ●人権の尊重 ●強制労働、児童労働の横行 ●フェアトレードの推進 ●サプライチェーンの寸断・混乱 ●災害の激甚化 	 持続可能なサプライチェーンの実現 ▶P.33		●サステナブル調達ガイドライン浸透	●サステナブル調達ガイドラインに沿った調達(アンケート回収率)	2025年	●80%	●未実施
							●サステナブル調達の推進				
							●サプライチェーン最適化の推進		2025年	●定性評価	—
							●Zero Call Companyの推進		2030年	●10,000件/年	●2,404件/年
		いのちの未来を拓く	食だけでなく、メディカル、ヘルスケアなどの領域を拡大・強化し、多様なライフスタイルとライフステージにあっても、すべての生活者が健やかさを享受できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢化社会の進展 ●途上国の医療・介護インフラが未整備 	 健康的な生活への支援 ▶P.34		●再生医療、ヘルスケア領域への多様なアプローチ	●再生医療、ヘルスケア等の新規領域の製品開発	2025年	●定性評価	—
							●アジアのメディカル、ヘルスケアへの貢献		2030年	●10,000件/年	●5,570件/年
		いのちの未来を拓く	環境負荷軽減、エネルギーマネジメントの革新により、地球上のすべてのいのちがいいきいと健康的であることを保つ。	●地球温暖化の進行	 脱炭素社会の実現 ▶P.35-40		●グリーン冷媒への転換	●加重平均GWP	2025年	●500(内蔵型)	●1,829(内蔵型)
							●冷媒ガス漏洩防止			●1,500(別置型)	●1,670(別置型)
●環境性能の高い製品を開発・提供	●冷媒漏洩量						2035年		●0t-CO ₂ /年	●63,503t-CO ₂ /年	
●CO ₂ 排出量削減	●LCA評価による環境負荷の少ない製品への移行						2025年		●定性評価	●LCA評価実施 ●ヨコ型一定速機種廃止	
いのちの未来を拓く	環境負荷軽減、エネルギーマネジメントの革新により、地球上のすべてのいのちがいいきいと健康的であることを保つ。	●地球温暖化の進行	 脱炭素社会の実現 ▶P.35-40		●ガリレイグループCO ₂ 排出量削減率	●ガリレイグループCO ₂ 排出量削減率	2030年	●2013年比▲50%	●2013年比▲31%(9,568t-CO ₂)		
					2050年		●2013年比▲100%				
いのちの未来を拓く	環境負荷軽減、エネルギーマネジメントの革新により、地球上のすべてのいのちがいいきいと健康的であることを保つ。	●地球温暖化の進行	 脱炭素社会の実現 ▶P.35-40		●バリューチェーン全体のCO ₂ 排出量削減への取り組み	●バリューチェーン全体のCO ₂ 排出量削減への取り組み	2025年	●定性評価	●エアテック14店舗、エネマネ464店舗(10.6%省エネ貢献)導入		
					●ガリレイ1%クラブを通じた社会貢献活動の推進		●ガリレイ1%クラブ活動実施件数	2030年	●100件/年	●42件/年	
いのちの未来を拓く	環境負荷軽減、エネルギーマネジメントの革新により、地球上のすべてのいのちがいいきいと健康的であることを保つ。	●地球温暖化の進行	 脱炭素社会の実現 ▶P.35-40		●スポーツ振興を通して地域社会に貢献	●地域コミュニティや行政との共催によるスポーツ振興支援	2030年	●1,000人/年	●34人/年		
					●人材の育成、教育制度の継続的強化		●一人当たり研修時間	2030年	●20時間/人 ^{*1}	●10.5時間/人 ^{*1}	
いのちの未来を拓く	環境負荷軽減、エネルギーマネジメントの革新により、地球上のすべてのいのちがいいきいと健康的であることを保つ。	●地球温暖化の進行	 脱炭素社会の実現 ▶P.35-40		●ガリレイアカデミー推進・拡大	●技術者養成学校運営による冷熱技術者の育成	2025年	●定性評価	●短期職業訓練校認定 ●卒業生40名/年		
					●従業員エンゲージメントの向上		●エンゲージメント全社平均偏差値	2030年	●65 ^{*1}	●48.6 ^{*2}	
いのちの未来を拓く	環境負荷軽減、エネルギーマネジメントの革新により、地球上のすべてのいのちがいいきいと健康的であることを保つ。	●地球温暖化の進行	 脱炭素社会の実現 ▶P.35-40		●人材基盤の多様性確保(女性活躍推進、中途採用拡充、若年層の離職低減、シニア人材活用、外国人登用拡充)	●女性役員比率 ●女性管理職比率 ●海外グループ会社の現地社員の管理職比率	2030年	●30%	●8.3%		
					●働きやすい職場環境と多様な働き方の整備			●時間外労働平均時間	●75%	●50%	
いのちの未来を拓く	環境負荷軽減、エネルギーマネジメントの革新により、地球上のすべてのいのちがいいきいと健康的であることを保つ。	●地球温暖化の進行	 脱炭素社会の実現 ▶P.35-40		●働きやすい職場環境と多様な働き方の整備	●有給休暇取得率	2025年	●20時間 ^{*1}	●28.3時間 ^{*1}		
					●ダイバーシティ&インクルージョン(女性活躍推進、外国人・障がい者雇用、LGBTQ+)の拡大		●多様な人材の活躍	●70% ^{*1}	●53.5% ^{*1}		

※1 フクシマガリレイ単体
 ※2 フクシマガリレイ東日本支社(浅草橋・日本橋事務所)

マテリアリティから 新たな価値創造へ

ガリレイグループのサステナビリティ経営推進への取り組みの現状と目標について、
社外の有識者から見た評価と今後に向けたアドバイスを伺いました。

Discussion for Sustainability



梨岡 英理子

フクシマガリレイ株式会社
社外取締役
(監査等委員)

日野 達雄

フクシマガリレイ株式会社
取締役
上級執行役員
管理本部長

國部 克彦 先生

神戸大学大学院
経営学研究科教授
博士(経営学)
大阪市立大学大学院
経営学研究科
後期博士課程修了

高岡 大造 先生

大阪電気通信大学
名誉教授 博士(工学)
四条畷市環境審議委員
元大阪市ESCO事業
提案評価会議委員
大阪大学大学院工学
研究科機械工学専攻
博士前期課程修了

福島 豪

フクシマガリレイ株式会社
代表取締役
社長執行役員

吉年 慶一

フクシマガリレイ株式会社
社外取締役
(監査等委員)



社会的 이슈の視点が 企業の価値創造を促す

福島 社長に就任して1年が経過しました。経営に携わる立場として、ますます考えることが多くなったのが企業価値の向上についてです。事業として売上、利益を上げていくのは当然のこととして、ESG経営を推進し、いかに企業価値を高めていくかが、今後のガリレイグループに不可欠なことだと感じています。もちろん、これまでの事業活動がESGに結び付いていなかったわけではありません。今回、マテリアリティを特定したことで、わたしたちのこれまでとこれからの事業活動が、いかにESGとつながっているかをより明確にして発信できると考えています。

國部 マテリアリティの特定にあたって非常に重要なのが社会的 이슈の視点をもつことです。経営に社会的 이슈の視点を取り入れることは、企業に新しい価値創造を促すことにもつながっていきます。企業にとってマテリアリティが大切なのはこの点においてであり、その視点がなければ、通常の経営と同じことになります。

福島 先生からご覧になって、特定したマテリアリティの妥当性という点ではいかがでしょうか。

國部 今回、ガリレイグループが特定したマテリアリティについては、どの項目においても社会的 이슈と紐づけられており、意義あるものといえるのではないのでしょうか。その上で一つ付け加えるとしたら、それぞれの取り組みをより俯瞰的な社会的 이슈として位置づけることができるとなるといいと思います。一例を挙げると、「生活者のくらしを向上」というマテリアリティの中に、具体的な取り組みとして「食のスタートアップ企業育成」が設定されています。これに例えば「貧困問題の解決に向けた」というフォーカスを与えることで、ガリレイグループの事業として、その社会的な意義がより伝わるようになると思います。

す。CO₂排出量を削減する取り組みは、社会のエネルギー効率を高めることであり、価値創造そのものといえます。

ガリレイグループはグリーン冷媒への転換に取り組まれています。社会的 이슈という観点からすると、自社製品の環境負荷のみならず、さらに視野を広げるべきだと考えます。CO₂排出量を包括的に抑えるソリューションビジネスですね。そこには製品単体ではなく、サーキュラーエコノミーやDXも関わってきます。そうした発想で物事を考えていくことで、今までなかったような製品周辺との関わりが生まれ、新たなビジネスチャンスが出てくるでしょう。

福島 「脱炭素社会の実現」は、わたしたちも事業直結のテーマだと捉えています。お話をお伺いして、より踏み込んだ5年後、10年後の目標が必要だと感じました。すでに建築設備の一次エネルギー消費量をネットゼロにする「ZEB」認証を取得したスーパーマーケットが実現しています。そうしたソリューションの提案をグループで推し進める取り組みが必要ですし、マテリアリティに対する具体的な取り組みとしても掲げるべきだと感じました。

國部 おっしゃる通りです。手掛けられているものでいうと、冷蔵ショーケースも重要になってくるでしょう。例えばモデルとなるスーパーマーケットを作り、さらに地域創生と結び付けていくと、可能性は大いに広がっていくと思います。

高岡 すでにスーパーマーケットのエアコンや冷蔵ショーケースを一括で管理するシステムを提供されていますが、まさにその領域ですね。

福島 太陽光や蓄電池の設置も含めて、スーパーマーケットのすべてのエネルギー管理をわたしたちが行うという提案を行っています。そうした取り組みは、今後より一層求められていくと思いますし、弊社としても推進していく方針です。

人材育成を社内のテーマを超えた 社会的 이슈として考える

國部 「人材の育成」というマテリアリティも、サステナビリティの 이슈として非常に重要な意味を持つと思います。人材育成を重要と考えていない会社はありません。ただし、この人材育成を自社のためだけの人材育成とするならば、社会的 이슈とは言えない

脱炭素というマテリアリティに、 ソリューションビジネスとして向き合う

國部 マテリアリティの中でも、「脱炭素社会の実現」はガリレイグループの事業にとって価値創造と直結する極めて重要な課題で

マテリアリティは形式で終わってはいけません。 宣言から実践へ、全社で力を合わせて推進していきます。

でしょう。社会に有為な人材を作り出してというのが企業の目的と捉えたとき、初めて社会的イシューと結び付きます。会社としても、そうした優秀な人材がいきいきと働ける環境を整備することで成長につながるでしょう。

福島 わたしもその通りだと考えます。人材育成を目的として立ち上げたガリレイアカデミーは、現時点では自社スタッフの育成の場となっています。しかし、将来的には外部の人たちも自由にここへ学びに来てもらえる場所にしていきたいと考えています。実際、その活動ができるように社内で議論を進めているところです。

國部 それは素晴らしい取り組みですね。他にも人材については、定年後雇用の問題もあるかと思えます。高齢化社会において、高齢者の雇用という課題も大きく、この問題にガリレイグループとしてどう向き合うかは非常に重要ではないでしょうか。

福島 わたしたちの技術者は比較的若い世代が多いのですが、あと10年、15年と経つと多くの技術者たちが定年を迎えます。その時の雇用の在り方というのは、今から向き合う必要があります。

真のダイバーシティ推進とは、 個々の能力を活かせる環境の追求にある

高岡 人材というテーマで言うと、「多様な人材の活躍」も非常に大切です。例えば、具体的な取り組みとして女性活躍推進を挙げられています。わたしが学生だった頃に比べると、化学系の女子学生が非常に多くなっています。しかも、学会に参加して発表を聞いていると、とても優秀な学生が多い。ガリレイグループにおいても、自ずと女子学生の採用が増えていくだろうと感じます。

福島 女性の採用は積極的に行っています。加えて、今わたしが思い描いているのは、事務職の女性社員が総合職となり、CADやDX

を駆使する技術者にステップアップしてもらおうというキャリアパスです。東京や大阪は女性社員の採用も増え、やる気に溢れた人も多いため、スキルを身に付けてレベルアップしていったらいいはずですよ。

高岡 社内の女性社員が技術者へ転向することは、十分に可能な話だと思います。ぜひ、推進していただきたいです。

國部 わたしの大学でも女性経営者、女性管理職の研修プログラムを作成してほしいという依頼があります。ただし、その中で分かってきたことは、男性にとって望ましい業務のやり方が、女性にとっても望ましいとは限らないということです。女性が喜びを感じられる仕事のスタイルや場面というものがあるので、その適性を見極めることが大事なことだと思います。個人の適性や能力を発揮できるような職場づくりを目指して、一人ひとりが能力を発揮できる会社。それこそが、本当のダイバーシティです。

梨岡 わたしはまさにフクシマガリレイで働く女性の一人ですが、國部先生がおっしゃる通り、今の評価制度の中に女性を組み込もうとすると無理が生じる場面が出てきます。課長などの管理職につけば、業務が増えるのでやりたくないという女性は一定数いるのが実情です。男性の場合は、その先を見据えて我慢する人もいますが、女性はその環境を望まない人も多い。その辺りを見直す必要は出てくるでしょう。そもそも、わたしはプレイヤーの能力とマネジメントの能力は別のものだと考えています。縦の階層と横の階層の働きやすさを追求することも、ダイバーシティの推進につながるはずですよ。

形式ではなく 実質化こそが重要

高岡 今回特定された8つのマテリアリティと具体策について、全



体的に非常によく考えられているなという印象です。技術者の観点で1つ付け加えるとしたら、食、医療・理化学の分野における凍結乾燥についての視点も入れられるとより良いでしょう。そうすることで、「フードロスの低減」や「健康的な生活への支援」のマテリアリティに、より社会的な価値が生まれると思います。

國部 マテリアリティ、サステナビリティを考える時に何よりも重要なことは、表面的なことで終わるのではなく、実質化させるということです。今、わたしが研究者として感じているのは、多くの企業においてサステナビリティ経営が形式化しているということ。本来はサステナビリティ経営を実質化させるためにあるのが、マテリアリティです。そもそもマテリアリティの特定が世の中に普及した背景には、その企業にとって重要なものに特化してアクションを起こすためでした。しかし、現在は「しなければいけないもの」と捉えられるケースがほとんどで、そのために形式化してしまう傾向にあります。そうならないように、実質化することを念頭に、各取り組みをより具体化してほしいです。マテリアリティには、財務的な価値創造ではない価値を発見できる可能性を多分に含んでいます。会社にとっては事業の本質ではなくても、社会にとって重要な問題を会社の中に取り入れて実質化していくと、新たなガリレイグループの価値創造につながっていくはずですよ。

吉年 國部先生、高岡先生のご指摘とご指導に感謝いたします。マテリアリティの特定としてはまだまだ議論の余地が残っていますが、こうして8項目を掲げて一歩を踏み出したことは、これからのガリレイグループにとって大きな意味があります。わたしたちにとってのマテリアリティとは、経営そのものです。國部先生からお話があったように、このマテリアリティが形式的なものになってはいけません。事業の成長や持続性、そして企業価値の向上につながるよ

うにしっかり実践していく必要があると強く感じました。当グループには目標に対してひたむきに努力をするという風土があります。マテリアリティに対しても社員全員で一つになり、取り組んでいくことで、価値が創造され、オンリーワン企業につながると思います。

梨岡 このマテリアリティへの取り組みは、まだスタートラインに立ったばかりです。ご指摘にもあったように、先に社会課題があり、ガリレイグループはその課題解決にどう貢献できるかという発想については、まだまだ突き詰めていかなければなりません。その視点をより強く意識することで、新しいビジネスにつながるはずですので、今回のマテリアリティの特定が今後の飛躍のきっかけになれば良いと思います。もちろん、そのビジネスはすぐ利益に結び付くということはないかもしれませんが、将来的には利益にもつながるでしょうし、ガリレイグループにとって大きな価値となりますので、今回のマテリアリティの特定をきっかけに全社員で話し合ってもらいたいです。

日野 マテリアリティの特定については、実質化させることが重要であるというお話をいただいておりますが、今回、各マテリアリティに対して中長期的に取り組んでいく目標を立てています。この目標を掲げた目的は、社員一人ひとりが突き進む一つの原動力になるのではないかと考えたからです。ただし、現時点で考える目標となっていますので、この内容をよりブラッシュアップして、より高い目標を目指せるように社員一丸となってPDCAを回しながら考えていきたいです。ガリレイグループがさらなる価値を創造していく企業へ進化できるように、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



生活者のくらしを向上

食のイノベーションの追求により、新たな食材、調理法、メニュー、食べ方を創出し、おいしさの喜びと感動をアップデートすることで、生活者のくらしの向上に貢献します。

MILAB

オープンに新たな食を創造する

ガリレイグループ本社に、人と技術をつなぐ“JOIN”をコンセプトに、新たな発想で食を創造するガリレイグループの“第3の工場”として、「MILAB (ミラボ)」を設けています。

お客様や異業種企業、大学、研究機関、起業家などが集まり、新しい技術やアイデアを生み出しています。



MILAB利用者数



MILABオフィス

食に関わる事業のスタートアップや新規事業の展開を検討している方などを、多方面からサポートするインキュベーションの拠点です。

施設利用のサポートだけでなく、新たな価値を創造するアイデアの具現化を支援しています。

フードサイエンスセンター

2022年に開設したガリレイフードサイエンスセンターでは、食の衛生管理や品質を科学的に評価するためのさまざまな試験・検査・分析をお客様と一緒に実施することで、商品開発や製品開発など新しい価値創造に貢献しています。

MILABオフィス利用企業と

缶詰商品の共同開発

株式会社カンプライト様と一緒に、パンの缶詰の開発を進めています。商品の衛生検査や食感測定、官能評価を行い、安心でおいしい缶詰開発に向けて取り組んでいます。



MILABオフィス利用企業

 株式会社 カンプライト	 GOOD GOOD 株式会社	 日本農業 株式会社	 株式会社 タッハランド
 株式会社 Sydecas	 一般社団法人 味付けアドバイザー協会	 株式会社 ミライジンラボ	



TOPICS

2025年日本国際博覧会 テーマ事業「いのちをつむぐ」への協賛が決定

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現する上で重要な取り組みである、テーマ事業「シグネチャーパビリオン」の中で、小山薫堂テーマ事業プロデューサーが担当するEARTH MART館に協賛することになりました。ガリレイグループの持つ冷凍冷蔵技術、食物保管技術などで、テーマ事業の実現に協力していきます。

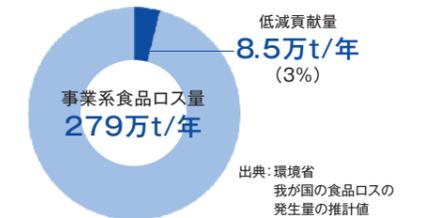


©EARTH MART / EXPO2025

フードロスの低減

食提供の効率化や鮮度保持の革新により、フードロスの低減に寄与し、世界中どこでも、誰でも、いつでも、いつまでも、食のゆたかさを享受できることを目指します。

フードロス低減貢献量 (2021年)



コールドチェーンでの食品の鮮度維持の推進

1. 凍結技術で消費期限をより長く

プラスチックラなどの冷却専用機器を使用し、調理における最適な温度管理をする(食材や目的等にあわせ、粗熱を取り・急速凍結を行う)ことで、食品の安全性を確保し、料理の品質向上や調理作業の効率化を実現する「冷却調理」を推進しています。本来廃棄されていた食材を凍結して適切に保管することでフードロスの低減に貢献します。



フードロス低減貢献量の考え方



冷却機器により食材を凍結することで冷蔵保管時よりも消費期限が延長できるため、その凍結量を貢献量として試算。

例: プラスチックラ6型1台で 13.2t/年のフードロス低減に貢献

【試算根拠】
6型のプラスチックラで1回あたり唐揚げ約11kgで約80分(20℃→-20℃まで)、8時間で5回転すると55kg/日。55kg×240日=処理量13.2t/年と試算

2. アジアのコールドチェーンの発展に貢献

グループ全社で連携して提案することで、食の川上から川下まであらゆるコールドチェーン構築にグループの経験と技術で貢献していきます。

タイ工場はガリレイグループの海外生産工場として2015年8月より業務用冷凍冷蔵庫の製造を行っています。高品質で省エネ・環境に配慮した製品で、現在の販売網はアジア12拠点。アジアの生産拠点として、生産能力と対応力をさらに高め、皆様のニーズに応えていきます。



リーチインショーケース 機械室上置タイプ UEN-060REC

TOPICS

ベトナムイオン様にガリレイエアテックシステムを導入

ベトナムのビンズン新都市で初のショッピングセンター「SORA Gardens SC」が2023年7月にオープン。ショッピングセンター内のイオンの新店舗に、店内環境を最適化するガリレイエアテックシステムと冷凍・冷蔵ショーケース、各種設備機器を導入しました。



持続可能なサプライチェーンの実現

持続可能なサプライチェーンの実現を通して、
災害時や極限の環境であっても、食と健康のライフラインが途切れない状態を目指します。

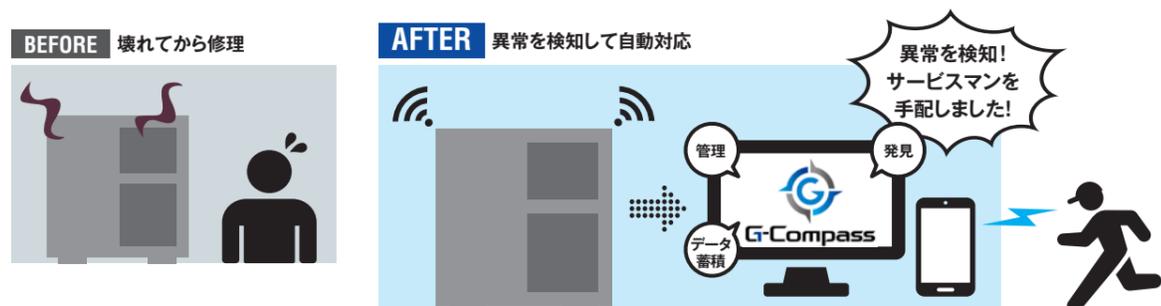
取引先との関係強化

取引先と信頼関係の向上を図るため、部品・部材等の納入業者と「GALILEI Supplier Hub」、
工事、サービスの協力業者とは「GALILEI Contractor Hub」を定期的で開催しています。
取引先には当社グループの方針を共有し、一緒に供給義務を果たしていくとともに、
取引先と共創し、新しい技術などを開発していくことで、持続可能なサプライチェーンを実現します。



スマート診断により「Zero Call Company」を実現

製品の稼働データからシステムが故障の予兆を見つけ、事前にサービスマンを派遣し、点検や修理を行います。
ビッグデータを活用したスマート診断を実施することで、製品を「直す」から「止めない」にスタイルチェンジします。
これにより、食と健康のライフラインが途切れない状態を目指します。



AIによるスマート診断実施店舗数



TOPICS

原信 荒川店様 豪雨水害からの復旧に向けた対応

2022年8月に新潟県村上市で発生した豪雨により、お客様の店舗で大規模な浸水被害が発生しました。1日でも早い店舗復旧を目指すため、ガリレイグループもお客様とともに尽力し、被災から1週間後の営業再開を果たしました。
ガリレイグループでは、災害時の復旧支援を行い、食のライフラインを止めないようにする活動を行っています。



健康的な生活への支援

食だけでなく、メディカル、ヘルスケアなどの領域を拡大・強化し、
多様なライフスタイルとライフステージにあっても、すべての生活者が健やかさを享受できることを目指します。

新規領域の創出・拡大・強化

1. 再生医療、ヘルスケア等の新規領域の製品開発

「食」で培ってきた温度コントロール技術に応用し、再生医療、ヘルスケアなどの新規領域においても社会課題を解決する製品のラインナップ拡充を図り、新たな価値創造をグループ全社で行っていきます。



ノンフロン薬用冷凍冷蔵庫

MediFridgeシリーズ FMS-F155GSX

ノンフロン冷媒(R1234yf(GWP:1))を採用。
マイクロチャンネル凝縮器採用により、ガス漏れ
リスクを低減。環境配慮型製品です。



蒸気加熱式再加熱カート

再加熱カートとは、設定した時間にチルドした料理の再加熱を自動で行い適温で配膳ができる製品です。主に病院や老健施設で採用いただいています。独自の蒸気加熱方式を採用し、料理の乾燥を抑え、ふっくらジューシーに加熱を行います。

2. アジアのメディカル、ヘルスケアへの貢献

グループ全社で連携して提案することで、冷蔵倉庫の設計・施工・運用など、グループの経験と技術でアジアの医薬品業界やヘルスケア業界におけるコールドチェーン構築に貢献していきます。

メディカル、ヘルスケアに貢献する 製品、システム、サービスの提供件数



デュアル冷却方式を採用したプレハブ冷凍冷蔵庫の導入を推進。
冷凍回路が二つあるため、片側の冷凍回路にトラブルが生じても、もう一方の冷凍回路が運転し、保管物の損失リスクを回避する設計になっています。また、デフロスト時の温度上昇を軽減するなど、よりシビアな温度管理精度を実現しています。

TOPICS

「未来医療国際拠点」の「共創」に参加

2024年開業予定の「未来医療国際拠点」(大阪市北区中之島)が掲げる「共創」に加わり、再生医療等製品を含む未来医療分野の方々と密に連携し、課題解決に取り組みます。さらに、当社が保有する高度な温度コントロール技術や技術開発力を展開し、未来医療技術の産業化に貢献していきます。

※右の写真は2021年5月時点のイメージバースであり、今後変更の可能性あります。
提供:中之島4丁目用地における未来医療国際拠点整備・運営事業開発事業者



脱炭素社会の実現

環境負荷軽減、エネルギーマネジメントの革新により、脱炭素社会の実現を通して、地球上のすべてのいのちがいきと健康的であることを目指します。



2030年までのSDGs「13.気候変動に具体的な対策を」への取り組みを柱とし、環境先進企業として、ステークホルダーからの期待、社会に対して果たす責任を達成するため『環境アクション2030』を策定しています。

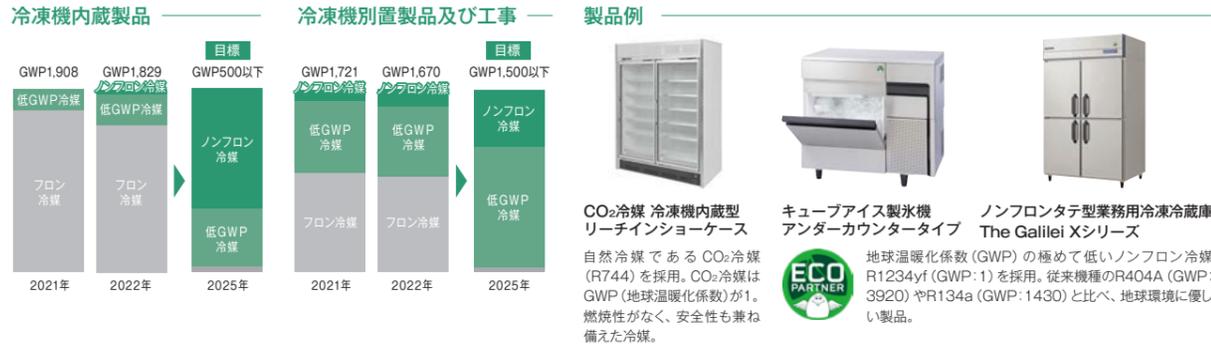
グリーン冷媒への転換

2025年の新規製品・新規設備へ使用する冷媒はグリーン冷媒(低GWP冷媒、ノンフロン冷媒)への転換を通じ、温室効果ガス低減に取り組み、地球温暖化防止に貢献します。

2025年中間目標

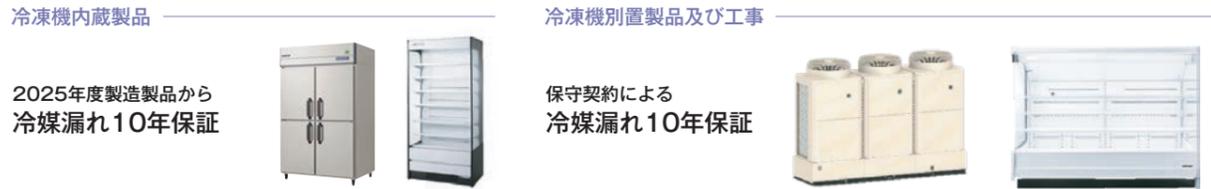


※冷媒の温暖化係数はGWP加重平均を示します。



冷媒ガス漏洩防止

2025年度製品・施工物件より冷媒漏洩による地球温暖化ゼロを目指します。また、プレメンテナンスの拡充により、冷媒漏れ10年保証を目指します。



具体的な取り組み

- | 製造時の対策 | 施工時の対策 | 保守時の対策 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●溶接レス又は溶接点数の削減 ●検査新技術の導入 ●材料劣化防止対策の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ●工事のDX活用 | <ul style="list-style-type: none"> ●DX活用による予防保全 |

「直す」から「止めない」にスタイルチェンジ

環境性能の高い製品を開発・提供

製品のライフサイクルにおいて環境性能の高い製品を提供しCO₂削減に取り組み、より環境負荷の少ない製品へ移行します。



LCA(Life Cycle Assessment) = 原料採掘から製品使用、廃棄まですべての工程で排出されるCO₂の合計を数値化

環境負荷の少ない製品への移行



CO₂排出量削減

グループ全体で2030年までにCO₂排出量50%削減(2013年度比)を目指します。



岡山工場、滋賀(水口)工場に太陽光発電設備を導入



お客様との協働により、エネマネ事業、ZEB化の推進を通して、バリューチェーン全体のCO₂排出量削減に取り組みます。



脱炭素社会の実現

TCFDに関する取り組み状況

ガリレイグループは、「持続可能な開発目標(SDGs)」の趣旨に賛同し、2019年11月に「ガリレイグループSDGs宣言」として「生活者の食生活品質の向上を」、「地球環境にもっとやさしく」の二つの目標に取り組んでいくことを宣言しています。また、「食といのちの未来を拓く」をパーパス(存在意義)として掲げています。重要課題の中でも事業の継続性への影響度の高さ及びパーパスに掲げる地球の「いのち」を守る観点から、「気候変動対応」を最重要課題として特定し、2021年6月にサステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」を掲げています。

ガリレイグループサステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」



ガリレイグループは「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」に賛同し、気候変動が事業にもたらす影響を分析し、TCFDの提言に基づき、取り組みを開示します。

1. ガバナンス

ガリレイグループ全体でサステナブルビジョンに沿った運営を行うため、2021年6月にグループ横断のSDGs推進委員会を設置しています。委員長である代表取締役社長執行役員のもと、気候変動対応を含む環境目標を決定しています。中長期目標については、SDGs推進委員会が策定したものを、取締役会にて決議しています。目標の進捗については、四半期に一度、委員会を開催し、全社の進捗状況を確認し、レビューを行い、重要な事項については、都度取締役会に報告しています。

2. 戦略

持続可能な地球環境を次世代に引き渡すことを目的に、2050年までの「カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現」に向け「環境ビジョン2050」を掲げ、それを実現するための具体的なアクションとして「環境アクション2030」を策定し、環境先進企業として、ステークホルダーからの期待、社会に対して責任を果たしていきます。気候変動により平均気温が4℃上昇することは、社会に非常に大きな影響を及ぼします。世界全体で気温上昇を1.5℃以下に抑えることが目標とされており、その目標達成に貢献することが重要であると認識しています。当グループは1.5℃、4℃シナリオでシナリオ分析を実施しています。

気候変動領域における主なリスク・機会

リスク・機会	種類	リスク・機会の概要	財務影響		対処
			1.5℃	4℃	
リスク	移行リスク	冷媒規制の強化と対応コストの増加(製品・拠点)	大	小	・環境アクション2030「グリーン冷媒への転換」、「冷媒ガス漏洩防止」推進 ・新冷媒取り扱いのための設備投資、技術習得のための研究開発、教育訓練
		省エネルギー規制の強化と対応コストの増加(製品・拠点)	中	小	・環境アクション2030「環境性能の高い製品を開発・提供」推進
		炭素税の導入によるコストの増加	中	小	・環境アクション2030「CO ₂ 排出量削減」推進
	原材料価格・調達コストの増加	大	中	・ガリレイサプライヤーハブ、ガリレイコントラクターハブ発足 ・サプライチェーンと協働した対策の強化、売価への転嫁	
物理リスク	自然災害の甚大化などの異常気象の深刻化による操業影響	中	大	・BCPの策定、高リスク事業拠点の代替策計画	
	サプライチェーンの寸断による調達遅延	中	大	・複数購買、部品の共通化、在庫水準の引き上げ	
機会	製品・サービス	環境対応製品の需要増(グリーン冷媒・省エネ製品)	大	中	・環境アクション2030「グリーン冷媒への転換」、「環境性能の高い製品を開発・提供」推進
		断熱パネルの非冷空間への用途拡大	大	中	・非冷空間へのパネル化の推進 ・高断熱住宅などへの技術応用の推進
		Zero Call Company推進による顧客の信頼獲得	中	中	・環境アクション2030「冷媒ガス漏洩防止」推進
		コールドチェーンの拡大による冷凍設備・パネルの需要増	中	大	・食の上流へのグループシナジーの拡大 ・生産性、施工性の向上推進
	エネルギー源	再生可能エネルギーの低コスト化	中	小	・再生可能エネルギーの有効活用

3. リスク管理

リスク管理委員会を設置し、気候変動関連のリスクを含む全社リスクを、発生頻度と影響度により重要性を評価し、リスク管理を行っています。気候変動関連のリスクについては、ISO14001のPDCAサイクルに沿って管理しています。環境保全活動の継続的な改善を実現する仕組みとして、全グループの事業所においてISO14001に準じたグループ共通のマネジメントプログラムを構築しています。

4. 指標と目標

「環境アクション2030」のアクションごとに指標と目標を設定しています。

CO₂排出量(2013年比)



生物多様性保全に関する取り組み状況

基本的な考え方

ガリレイグループは、地球のいのちを守るべく、その源である自然の恵みを守り、維持する取り組みを推進します。

1. サステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」を掲げ、グループ全体で温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指します。
2. NPOや公益財団法人等と連携して、自然を保護・再生し、生物多様性を保全する取り組みを進めます。
3. 生物多様性に関する取り組みの状況について、ウェブサイト等を通じて定期的に開示します。

ビーチクリーン活動

従来から取り組んでいる「ガリレイ1%クラブ」の冷凍冷蔵庫寄贈および寄贈先へのボランティアに続く新たな社会貢献として、「ビーチクリーン活動」がスタートしました。

活動実施の背景には、ガリレイグループは、サステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」を掲げ、温室効果ガスの排出量実質ゼロに挑戦していますが、その「℃を超えた挑戦」のアイコンであるクジラを守りたい、そしてそれを育む海を守りたい、という思いからきています。

ビーチクリーン活動は、環境の重要事項である生物多様性保全にも繋がります。この活動を通じて、脱炭素社会の実現および社会貢献、環境保全にも取り組んでいきます。

活動実績

2023年6月	静岡県	清水三保海浜公園	46名
2023年9月	神奈川県	由比ガ浜海水浴場	20名
2023年9月	大阪府	堺浜自然再生ふれあいビーチ	71名
2023年10月	静岡県	清水三保海浜公園	58名



脱炭素社会の実現

環境方針

ガリレイグループは、地球環境にやさしい事業活動を重要な経営課題の一つとして認識し、環境への影響を配慮した取り組みを、継続的かつ積極的に推進します。

1. 製品、システム、サービスの製造、販売、工事、メンテナンスを実施するにあたり、環境負荷を低減する製品、システム、サービスの提供・提案を行います。
2. 事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、環境保護に努めるとともに、環境管理システムの継続的な改善に取り組みます。
3. 法規制、条例、当グループが所属する業界団体、地域社会の取り決め等を遵守し、環境管理に努めます。
4. 事業活動によって生じる環境影響のうち、次の項目を重点テーマとし、改善に取り組みます。
 1. 環境に配慮した製品、システム、サービスの開発、製造、販売の推進
 2. 環境に影響を与える化学物質の使用削減、管理レベルの向上
 3. 資源の有効利用の促進
 4. 気候変動への対応
 5. 自然環境の保護
5. 環境保全に関する目標を設定し、実行計画を作成した上で、これを実施します。またこれらは定期的に見直し、必要に応じて改訂を行います。
6. 環境管理システムの文書化を行い、この内容に沿って運用し、環境管理システムの維持管理を行います。
7. すべての従業員に本方針を周知徹底させるとともに、教育によって環境保護の重要性への意識向上に努めます。また、取引先に対しても、本方針への理解と自社における実践をしていただくように働きかけます。
8. 環境に関する取り組みの状況について、ウェブサイト等を通じて定期的に開示します。

EMS推進体制

1. 環境監査

EMSが有効に機能しているかを確認するため、内部監査を年1回、外部認証機関による外部審査を年1回実施しています。

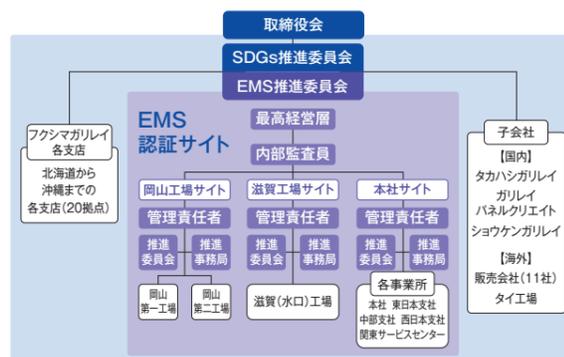
2022年度は2021年度に引き続き、内部監査員の知識・技量の向上を図るため、外部講師による内部監査員講習を実施しました。

それに伴い、内部監査員の登録者は126人から162人へと増員しました。

2. 推進委員会

各サイトには、EMS管理責任者の下にEMS推進委員会が設けられており、定期的な会合・目標の策定・進捗と見直しなど、さまざまな情報交換が行われています。

2022年度は、本社サイトは36人、滋賀(水口)工場サイトは24人、岡山工場サイトは20人で運営を行いました。



3. 環境教育

年間教育計画表をもとに年1回、全従業員(一般社員・パート・派遣社員・請負業者)に向けた環境教育を実施しています。

当社にとって最も関わりの深い環境活動であるフロン回収作業については、独自の認定基準を設け、認定登録者による回収作業を徹底。

フロン回収技術者には、毎年緊急時の対応訓練を実施するなど、能力の強化を図っています。

環境実績

環境保全の目標・実績評価 本社・東日本支社・中部支社・西日本支社

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2022年度実績	評価	
I. 生活者の食生活品質の向上を	①食の安全・安心の追求	製品の拡販(目標:販売予算 総台数)	実施率149%	◎	
		安全・安心契約、システムの開発・提供(MILDE、HACCPマスター、Bemsの提案)	実施率119%	◎	
		上記項目の販促ツールの作成・情報提供	実施率137%	◎	
II. 地球環境にもっと優しく	②フードロスの低減	長持ちビジネスの推進・提案(プラスチックラー、急速凍結庫、冷凍ロッカー)	実施率173%	◎	
		省エネシステムの開発・提供	実施率108%	◎	
		ガス補充件数・充填量・有償無償金額の把握	実施率 76%	△	
III. 法規制の遵守徹底(環境法、条例、業界の取り決めの順守)	①気候変動への適応と緩和	無駄な電力の削減(照明消灯、フィルター清掃、簡易点検など)	実施率100%	◎	
		②持続可能な地域環境への貢献	省エネ製品の拡販(目標:販売予算 総台数)	実施率126%	◎
		冷媒回収量・破壊量の記録の徹底	実施率100%	◎	
IV. 社員の教育	①法令順守	環境関連法規制の情報開示	実施率100%	◎	
		36協定の順守(業務改善ミーティングの実施・残業時間の確認)	実施率 98%	○	
		適合性のチェックの徹底	実施率100%	◎	
①教育訓練の実施/社会貢献活動の実施	教育訓練の実施	実施率 85%	○		
	近隣清掃の実施	実施率100%	◎		
	ガリレイ1%クラブ	実施率 87%	○		

環境保全の目標・実績評価 滋賀(水口)工場

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2022年度実績	評価
地球温暖化防止(CO ₂ 排出量の削減)	製品の省電力化により省エネな製品の開発、新規開発製品・改良品により開発段階における新旧製品・部品に対してCO ₂ 換算を行い、改良・改善によりCO ₂ 排出量を削減する	新規開発・部品図作成段階・性能段階においてCO ₂ 換算し、CO ₂ 排出量2021年度比10%削減を目標とする。また、性能試験に用いる試験機の電力使用量についても、2021年度比2.0%削減する	冷媒転換R-448A採用化/モデルチェンジ・CO ₂ 排出量換算2021年度比 48.4%減	◎
		温室効果ガスの排出量を2021年度比2.0%削減する	2021年度比 4.0%減	◎
		工場の日間付加価値を2021年度比107%にする	時間あたり製造仕切 2021年度比0.1%アップ	○
資源の有効活用	温室効果ガスの排出量を削減する	電力使用量(昨対2.0%削減)	2021年度比 3.9%増	○
		都市ガス使用量(昨対2.0%削減)	2021年度比 6.7%増	○
		コピー用紙の使用量を2021年度比2.0%削減する	2021年度比 9.4%減	◎
産業廃棄物の削減と適正処置	素材・消耗材の使用量を削減する	産業廃棄物の排出量(昨対2.0%削減)	2021年度比 9.9%増	○
		特別管理産業廃棄物の排出量(昨対2.0%削減)	2021年度比 25.2%増	△

環境保全の目標・実績評価 岡山工場

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2022年度実績	評価
フロンが与える環境影響低減	冷媒回収の徹底	チェックシートによる回収記録の実施	実施率100%	◎
		フロン排出抑制法の順守 フロン使用機器の管理・定期点検	実施率100%	◎
地球温暖化防止(CO ₂ 排出量の削減)	温室効果ガスの排出量を削減する	温室効果ガスの排出量を2021年度比5%削減する	2021年度比 35.0%減	◎
		生産性向上により電力使用量を2021年度比5%削減する	2021年度比 16.9%減	◎
		LPG消費量を2021年度比5%削減する	2021年度比 7.5%減	◎
資源の有効活用	素材・消耗材の使用量削減	コピー用紙の購入量を2021年度比3%削減する	2021年度比 2.6%減	×
産業廃棄物の削減と適正処置	産業廃棄物の排出量削減	産業廃棄物の排出量を2021年度比5%削減する	2021年度比 1.7%増	×

地域社会との共生

地域市民の一員として身近な人をしあわせにすることから始め、地域社会との共生の実現を通して、世界中の人々のしあわせに貢献します。

ガリレイ1%クラブ

継続的な社会貢献活動に ガリレイグループ全員で取り組む

継続的に社会貢献活動を行っていくため、税引き前利益の約1%を社会貢献活動に活用する「ガリレイ1%クラブ」を、2021年に発足させました。グループ社員全員が積極的にボランティア活動に関わる「社員参加型」の社会貢献活動です。広く社内から応募を募り、社員が自主的に参加できるような活動を行っており、2022年度は42件の活動が実施されました。主に、冷凍冷蔵庫の寄贈およびボランティア活動が中心となっており、2022年度は49団体に76台の冷凍冷蔵庫を寄贈しました。引き続き、ガリレイグループらしい「食」や「いのち」に関わる社会貢献活動のアイデアをグループ全社から募集し、積極的に取り組んでいます。

ガリレイ1%クラブ活動実施件数



取り組み事例

Foundation for Slum Child Care様

海外でも製品寄贈・ボランティア活動に取り組んでいます。Foundation for Slum Child Care (スラム保育財団) が運営する保育施設に、タイ工場製のリーチイン冷蔵庫を寄贈しました。

ボランティア参加人数

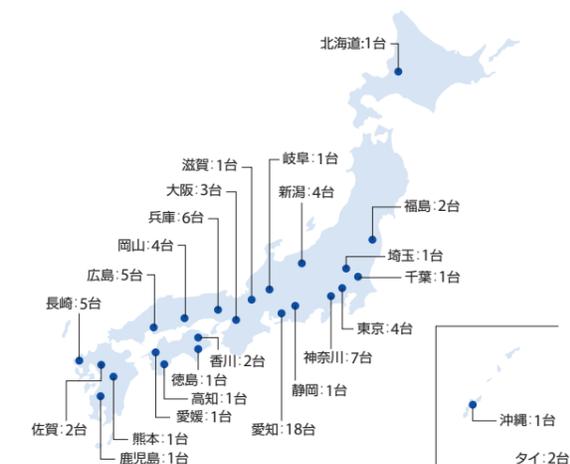


製品の寄贈について

2022年度

寄贈台数 **76台** 寄贈団体数 **49団体**

主要な寄贈先: 子ども食堂・フードバンク・コミュニティプリッジ



VOICE

ボランティア参加者の声

人生で初めてのボランティア活動で、子ども食堂にてベヒーカステラを作ったり、食事の配膳のお手伝いをしたりしました。子どもたちはとても活発で、たくさんの笑顔と元気をもらい、仕事のモチベーションアップにも繋がります。また、子ども食堂は地域のコミュニティの場にもなっており、古き良き時代を感じるとてもホットな場所で、懐かしさを感じることができました。これを機に、今後も積極的にボランティア活動に参加したいと思います。

四国支店 支店長



キッズニア甲子園

“冷える仕組み”を学び、機械の修理・点検を実体験 子どもと保護者で深める「食」への興味関心

子どもの職業・社会体験施設「キッズニア甲子園」(兵庫県西宮市)に2015年から「冷蔵サポートセンター」のパビリオンを出展しています。スーパーマーケットやコンビニエンスストアに並ぶショーケースの“冷える仕組み”を学び、普段口にする食の安全・安心がどのように守られているのかを、修理・点検の仕方や管理モニターの確認作業を通して体験できます。訪れた子どもとその保護者に、緑の下の力持ちとして社会に役立っているフクシマガリレイの製品を通じて、食への興味関心、仕事の大切さを伝えています。



キッズニア甲子園について

2022年度

パビリオン体験者数 **11,309名**

スポーツを通じた地域共創の活動の推進

実業団女子テニス部の活動

2017年4月に発足した実業団女子テニス部は、実業団最高峰の日本リーグに所属しています。2022年度は、熱戦の結果、決勝トーナメント進出の目標は惜しくも達成できませんでしたが、初めて全体4位で日本リーグの残留が決定しました。

2023年度は所属部員6名体制で、目標の決勝トーナメントに進出できるように努力していきます。今後も女子テニス界の発展や環境改善、部員のキャリアデザイン構築や働き方改革に貢献する取り組みとして、活動を継続していきます。



近年の実績

- 2022年1月 第36回テニス日本リーグ出場【レッドブロック5位残留】
- 2023年1月 第37回テニス日本リーグ出場【ブルーブロック4位残留】



TOPICS

ユニクロ全日本ジュニアテニス選手権2023 企業ボランティアとして参加

2023年8月に開催された「ユニクロ全日本ジュニアテニス選手権2023」へ、当社の実業団女子テニス部員をはじめ、延べ25名が大会運営サポーターとして参加しました。暑熱対策として、当社の製氷機を活用したアイスバスの温度管理(深部体温を下げクールダウンを促す)や、蓄冷剤用急速凍結庫を使用したアイスラリーの選手への提供を行い、大会コンセプトである「暑熱対策に対して世界一安全かつ、参加できて良かったと思える大会を目指します」に貢献しました。さらに実業団女子テニス部員を中心に、勝利者インタビューやナショナルコーチクリニック(早期敗退者優先の出場選手向けイベント)のサポートなども行いました。今後もスポーツ振興を通して、地域社会への貢献を継続していきます。



人材の育成

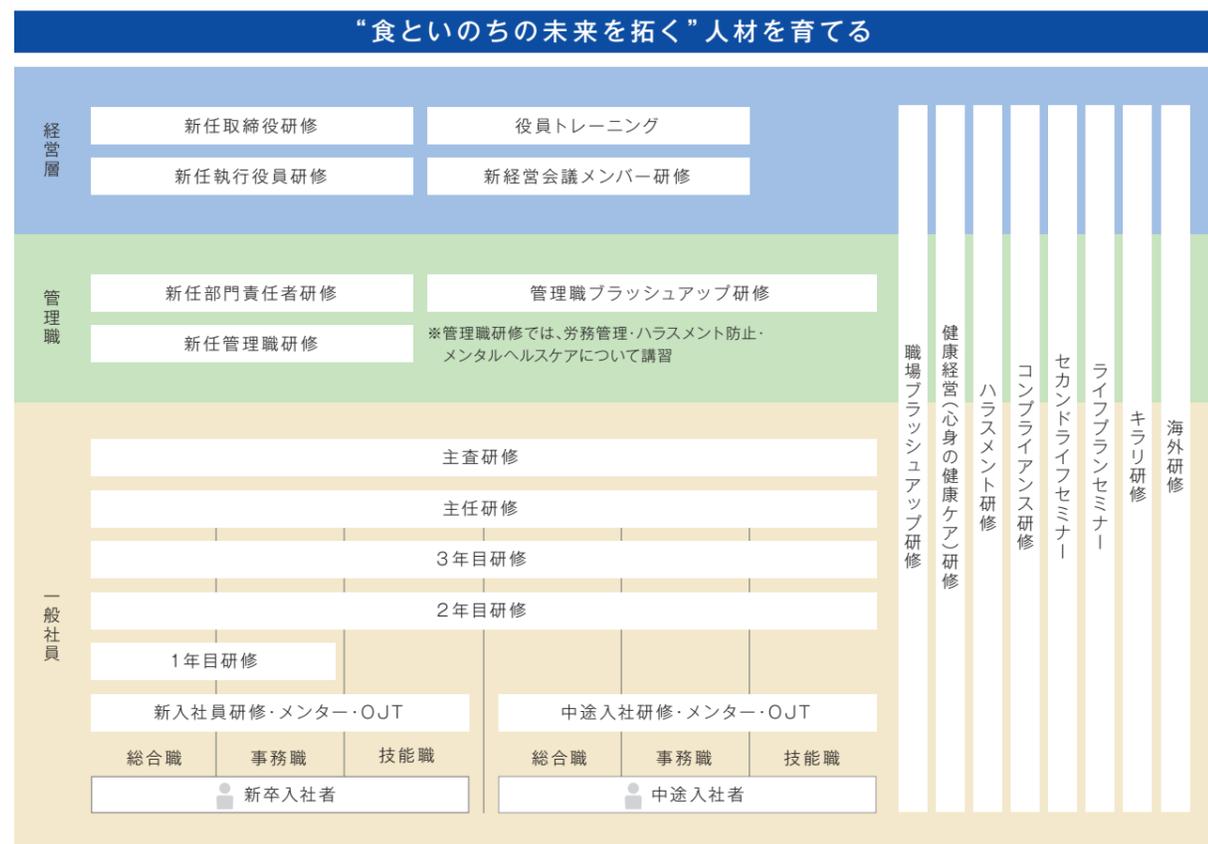
将来世代のフードチェーンを支える人材の育成を通じて、おいしさ、ゆたかさ、いのちの未来を拓き、世界中の人々のしあわせの未来を拓くことに貢献します。

全社研修制度の拡充

「食といのちの未来を拓く」人材を育てる」をテーマに全社研修制度の拡充を図っています。2022年からは人材力強化と早期活躍支援のための教育課程としてガリレイアカデミーを開校し、2023年には営業アカデミーを開校しました。

また、階層別研修を中心とした研修を実施しており、全社研修制度の拡充を図っています。これまでは早期離職を防ぐために若手社員を中心に研修を実施していましたが、さらに中堅社員の成長・キャリアアップ支援と組織力強化のための研修を追加しました。それぞれが資格に応じた役割を認識し担うことで、一致団結して職場の方向性を善くしていき、エンゲージメントの向上を図ります。

全社研修・階層別研修



一人当たり研修時間



人材育成へさらなる注力、ガリレイグループの強みを最大化する

わたしたちが描くありたい姿「食といのちの未来を拓く挑戦者」の実現には人材が必要不可欠です。あらゆる仕事に挑戦できる人材を育てるため、教育体制の整備等を行い、挑戦できる風土を作っていきます。

1. 独自の人材育成機関 ガリレイアカデミー



2022年に人材力強化と早期活躍支援のための教育課程として、ガリレイアカデミーを開校しました。

冷凍冷蔵技術は、食のインフラを支えていくうえでなくてはならない技術です。当社のみならず業界全体で技術者の高齢化、若年層の離職率の高さなど後継者育成が困難であることが大きな課題となっています。そこで、ベテラン技術者による若年層育成、それによる技術力向上と技術サービスの安定供給を目指し、ガリレイアカデミーの設立に至りました。

ガリレイアカデミーでは約2か月間の実習で、製品の基礎知識から修理・メンテナンス、施工技術などを座学や実機研修を通して習得します。カリキュラムの後半には、OJTを実施し、実際の業務を通じて理解度の向上および対応力を磨き、即戦力となる人材を育成します。さらに、国家資格である第三種冷凍機械責任者、第二種電気工事士の資格取得を支援しています。また、2022年12月に大阪府の短期職業訓練校として認定を受け、外部のお客様向けに製品の勉強会を定期的に実施し、製品に関する理解を深めていただいています。今後は外部の協力企業の皆様の研修にもお役立ちしていきます。

技術力を高めて社会に役立つことで仕事にやりがいを持ち、イキイキと成長していく人材を育てることを、ガリレイアカデミーは目指しています。



ガリレイアカデミーについて

2022年度
・短期職業訓練校認定 ・卒業生 **40名**

2. 営業アカデミー開校

2023年に早期活躍および配属後の不安解消を目的とした新卒営業向けの職種別研修として営業アカデミーを開校し、2023年は21名が卒業しました。メーカー営業として必要となる基礎的な技術・現場知識を現場体験を通じて習得していくことを目的としたものです。工場・設備設計・工事・サービス部門がトータル3か月間営業育成に協力しました。部門の垣根を超えた営業研修によって、経験の浅い社員の社内ネットワーク強化にもつながっています。

3. ガリレイ塾での資格取得支援

建設業関連の資格取得を推進するため、「ガリレイ塾」を開講し、社内講師による教育フォローを行っています。2022年度は管工事施工管理技士1級に12名合格しました。また、資格手当を充実させ、資格取得を奨励しています。

多様な人材の活躍

多様な人材の雇用と多様なワークスタイルの推進、働き方の革新によって、従業員と家族の物心両面のしあわせを追求し、多様な人材の活躍に貢献します。

キラリ推進室によるダイバーシティの推進

当社ではキラリ推進室にて、特に女性の活躍推進について「採用」「定着」「活躍」の観点から目標を掲げ、働きやすい職場づくりに向け就業継続や活躍を支援するための施策を展開しています。

1. 文系女性総合職の積極的採用

総合職の女性比率向上のため、新卒採用における文系女性総合職の割合を毎年50%以上とすることを目標とし、積極的に採用を行っています。また、女性総合職を対象に座談会を実施するなど入社後のフォローアップを実施しています。

2. 女性の管理職への登用

女性管理職比率10%を2030年の目標値として設定しています。2023年5月には、他社と合同で女性キャリアデザインフォーラムとイクボスセミナーを開催しました。女性キャリアデザインフォーラムでは他社の女性リーダーとの座談会を通じて、今後のキャリアを考えるきっかけづくりを行いました。また、イクボスセミナーでは部下が仕事と育児・介護等を両立できるように配慮、応援し、また自らの生活も充実させ、成果を出すマネジメントについて学びました。このような活動を通じ、多様な人材が働きやすく、働きがいのある職場づくりに取り組んでいます。管理職候補となる総合職の主査・主任クラスは、2023年4月時点で26名となりました。

3. 職種転換制度

ダイバーシティ推進を目的に、事務職から総合職・地域限定総合職へ職種転換が可能な制度を2016年より実施しています。

4. 男性育休取得の推進

男性社員が育児休業を取得しやすい職場風土の醸成と取得率向上を目指すため、2022年4月より育児休業を取得する社員に対して5日間の特別有給を付与し、取得することを推進しています。また、取得した男性社員の事例を、社内で紹介する取り組みを行っています。

社内環境整備

1. 労働安全衛生の活動状況

2023年4月、事故災害を未然に防止するため、安全衛生委員会の上位組織として、ガリレイ安全委員会を新設しました。全社一体で「労働災害ゼロ」「交通事故ゼロ」「健康障害ゼロ」を推進しています。

2. エンゲージメント向上への取り組み

2022年9月より試験的に一部のエリアにてエンゲージメントサーベイおよび職場改善活動を実施しており、エンゲージメント向上の効果が得られています。2023年6月より対象部署を拡大しており、今後は全社展開により、制度改革や風土醸成に活かしていきます。従業員一人ひとりが安心して働ける職場であるかどうか、働きがいを得られているかどうかを定性的に評価・把握し、改善活動を推進していきます。

取り組み テーマ	実績		中長期目標	
	2021年 実績	2022年 実績	目標年	目標値
新卒文系女性 総合職比率	61.5%	44.4%	毎年	50.0%
女性管理職比率	1.9%	2.5%	2030年	10.0%
職種転換制度 利用者数(合計)	21名	23名	—	—
男性育休取得率	5.8%	52.6%	2030年	100.0%
エンゲージメント 平均偏差値	— ※1	48.6 ※2	2030年	65.0

フクシマガリレイ単体を対象としています。

※1 2022年度より実施のため実績値はありません。

※2 フクシマガリレイ東日本支社(浅草橋・日本橋事務所)のみの数値です。

健康経営の推進

2020年に「健康宣言」を行い、従業員の健康の保持・増進を積極的に支援していくことを経営方針として明確化しました。2021年には従業員の健康に関する課題を抽出。活動方針や目標を立案する計画に基づき、健康施策の企画・立案・実行・効果検証を行う健康経営委員会(通称:アオハル隊)を発足しました。アオハル隊では、従業員の意識を高めるため、定期的に食事や運動を中心とした健康に関する情報発信を行っています。

1. 身体 の健康保持・増進

法定項目の健康診断に加えて、がん検診を実施し、生活習慣病を含む疾病の予防、早期発見の充実に努めています。また、再検査・精密検査・要治療者に対する二次健診や特定健指導を積極的に受診勧奨しています。

2. 心 の健康保持・増進

年1回全社でストレスチェックを実施し、セルフケア機会の確保を図っています。100%受検を目標に受検を勧奨しています。2021年度には健康経営研修の一環として役員及び部門責任者を対象に、職場のメンタルヘルス問題にできるだけ早く気づき、社員が働きやすく力を発揮しやすい職場環境の整備を行うため、「ラインケア研修」を実施しました。

3. 喫煙対策・禁煙支援

禁煙意識の動機づけ及び禁煙したい人のサポートを推進するため、2022年6月30日に禁煙宣言を发布了。受動喫煙を含む喫煙による健康リスクを減らし、従業員の心と体の健康増進に取り組むとともに、喫煙による環境汚染の低減を目指しています。

禁煙に関する取り組み

2020年度

- ・2021禁煙チャレンジの開催
- ・毎月22日を「禁煙の日」として終日禁煙を実施

2022年度

- ・本社ビル敷地内全面禁煙を実施
- ・毎年5月の世界禁煙デーにあわせて社内へ情報提供

2021年度

- ・全事業所において就業時間内(休憩時間除く)及び社有車での禁煙を実施
- ・禁煙外来治療費の一部補助を開始

2023年度

- ・岡山工場敷地内全面禁煙実施

取り組み テーマ	実績		中長期目標	
	2021年 実績	2022年 実績	目標年	目標値
健康診断受診率	100.0%	100.0%	毎年	100.0%
ストレスチェック受検率	99.1%	98.5%	毎年	100.0%
喫煙率	30.1%	31.0%	2025年	20.0%
時間外労働平均時間	30.8時間	28.3時間	2025年	20.0時間
有給休暇取得率	52.8%	53.5%	2025年	70.0%

フクシマガリレイ単体を対象としています。



4. ワークライフバランスの推進

ノー残業デーの実施、在宅勤務の活用、インターバル制度の導入により長時間労働の抑制に努めています。年度初めには全従業員に取得予定日を申請させることで、計画的な有給休暇取得を推進しています。

5. ガリレイ体操の実施

2022年に運動施策の一環として、「ガリレイ体操」を制作しました。10月から毎日15時に全事業所で実施しています。始業前にはラジオ体操も行い、運動施策の推進を行っています。

コーポレート・ガバナンス

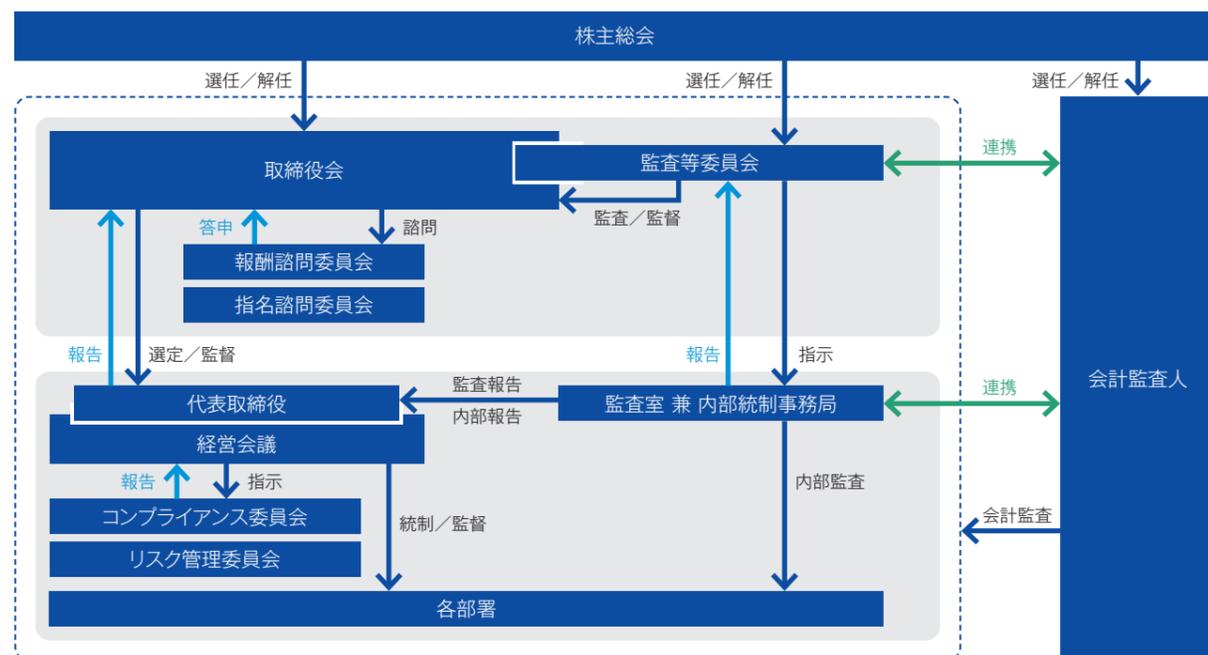
基本的な考え方

ガリレイグループは、経営の透明性の観点から公正な企業活動を促進し、社会からの信頼に立脚した持続的な成長及び中長期的な企業価値の向上を目指し、コーポレート・ガバナンスの体制充実に取り組んでいきます。

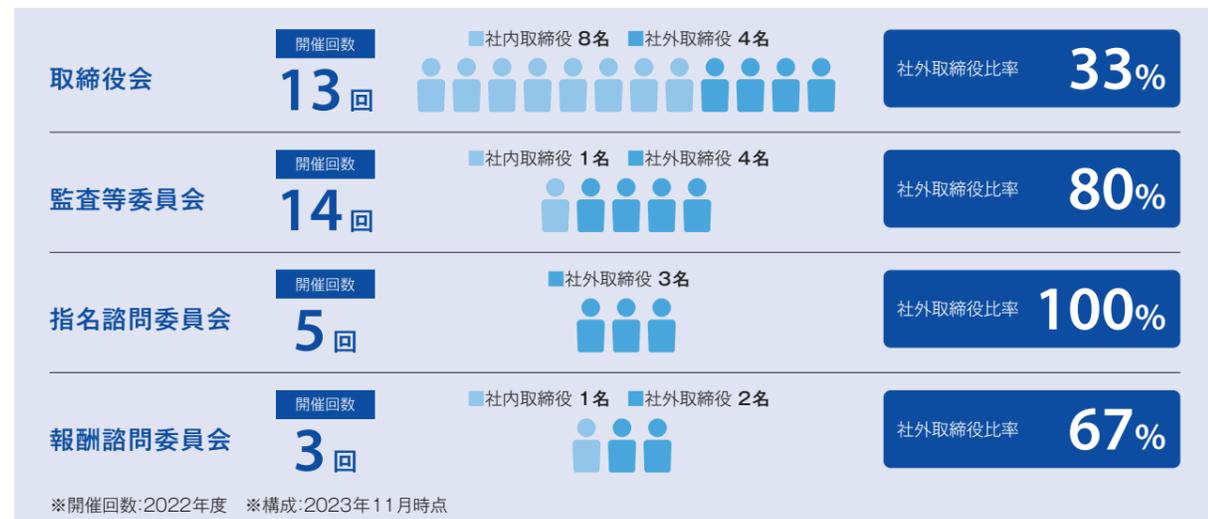
コーポレート・ガバナンス体制

迅速かつ機動的な意思決定、経営戦略等の議論の一層の充実と監督機能の強化を実現するため、監査等委員会設置会社を採用しています。また、経営幹部・取締役の指名や報酬などの特に重要な事項の検討に当たっては、独立社外役員で過半数が構成される指名諮問委員会・報酬諮問委員会を設置しており、適切な助言を得ています。

(2023年11月時点)



各機関の状況と構成



役員一覧・スキルマトリックス

(2023年11月時点)

氏名	福島 裕	福島 豪	福島 亮	片山 充	長尾 健二	水谷 浩三
役職	代表取締役会長	代表取締役社長執行役員	取締役 副会長執行役員	取締役 常務執行役員	取締役 常務執行役員	取締役 上級執行役員
取締役会出席状況(2022年度)	13回/13回	13回/13回	13回/13回	13回/13回	13回/13回	13回/13回
監査等委員会出席状況(2022年度)	-	-	-	-	-	-
指名諮問委員会	就任状況	-	-	-	-	-
	出席状況(2022年度)	-	-	-	-	-
報酬諮問委員会	就任状況	委員	-	-	-	-
	出席状況(2022年度)	3回/3回	-	-	-	-
所有株式数(2023年3月末時点)	983千株	88千株	667千株	37千株	28千株	25千株
主な専門性と経験	企業経営	○	○	○	○	○
	マーケティング・営業	○	○	○	○	○
	製造・研究開発・IT	○	○	○	○	○
	国際性	○	○	○	○	○
	財務・会計	○	○	○	○	○
	人事・人材開発	○	○	○	○	○
	法務・リスクマネジメント	○	○	○	○	○
	サステナビリティ*1	○	○	○	○	○
ガリレイフィロソフィの実践*2	○	○	○	○	○	

氏名	日野 達雄	竹内 博史	堀之内 健士	藤川 隆夫	吉年 慶一	梨岡 英理子
役職	取締役 上級執行役員	【監査等委員】社外取締役	【監査等委員】取締役	【監査等委員】社外取締役	【監査等委員】社外取締役	【監査等委員】社外取締役
取締役会出席状況(2022年度)	13回/13回	13回/13回	13回/13回	13回/13回	13回/13回	10回/10回*3
監査等委員会出席状況(2022年度)	-	14回/14回	14回/14回	14回/14回	14回/14回	10回/10回*3
指名諮問委員会	就任状況	-	委員	-	委員長	委員
	出席状況(2022年度)	-	5回/5回	-	5回/5回	5回/5回
報酬諮問委員会	就任状況	-	委員	-	-	委員長
	出席状況(2022年度)	-	3回/3回	-	-	3回/3回
所有株式数	13千株	4千株	9千株	0千株	1千株	0千株
主な専門性と経験	企業経営	○	○	○	○	○
	マーケティング・営業	○	○	○	○	○
	製造・研究開発・IT	○	○	○	○	○
	国際性	○	○	○	○	○
	財務・会計	○	○	○	○	○
	人事・人材開発	○	○	○	○	○
	法務・リスクマネジメント	○	○	○	○	○
	サステナビリティ*1	○	○	○	○	○
ガリレイフィロソフィの実践*2	○	○	○	○	○	

上記の一覧表は各氏が保有する専門性・経験・知見のうち、当社が特に期待するものを表しています。
 *1 当社におけるサステナビリティとは、ESG・CSR活動を含み、社会と地球環境(多様性、環境、資源など)の持続可能性に戦略的に取り組み、「幸せ創造企業」を実現することを示します。
 *2 ガリレイフィロソフィとは、当社の企業理念・ビジョン・行動指針を包括する普遍的な判断基準であり、その実践において模範となっていたことを期待するものです。
 *3 梨岡英理子氏は2022年6月27日に就任しており、出席状況は就任日以降に開催されたものを対象としています。

コーポレート・ガバナンスに関する考え方、コーポレートガバナンス・コードに関する取り組みの方針及び状況の詳細については、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」をご確認ください。

コンプライアンス

ガリレイグループ全体にコンプライアンスを推進するため、「コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンス意識の向上を図っています。

コンプライアンス委員会は、代表取締役 社長執行役員を委員長とし、経営会議のメンバーを管理責任者、部門責任者を実行リーダーとして、組織単位でコンプライアンスを推進する体制を構築しています。

コンプライアンスの推進に関する活動状況については、定期的に経営会議、取締役会に報告されます。

1. コンプライアンス教育

事業活動における法令、企業倫理、社内規程の遵守を確保するため、遵守すべき基本的な事項を行動規範（コンプライアンス・ガイドライン）として定めており、コンプライアンス研修の定期的な実施などにより、ガリレイグループ全体への周知徹底と浸透を図っています。

2. 内部通報制度

不正行為等の問題の早期発見と是正を図るため、内部通報制度を設けています。通報窓口は内部監査部門による内部の窓口に加え、弁護士法人による外部の窓口もあり、匿名での通報も可能としています。なお、通報がなされた場合は、速やかに内部監査部門をはじめとする関係部門にて調査を実施し、早期解決に努めています。

リスクマネジメント

事業遂行または経営資源に負の影響を及ぼす可能性のある様々なリスクについて分析および評価を行い、適切に管理するため、「リスク管理委員会」を設置し、リスクマネジメントを推進しています。

リスクカテゴリーごとにリスクを抽出し、さらに優先順位を付け、リスクが高いと判断したものを優先的に対応策を検討、推進し、リスクの低減を図っています。

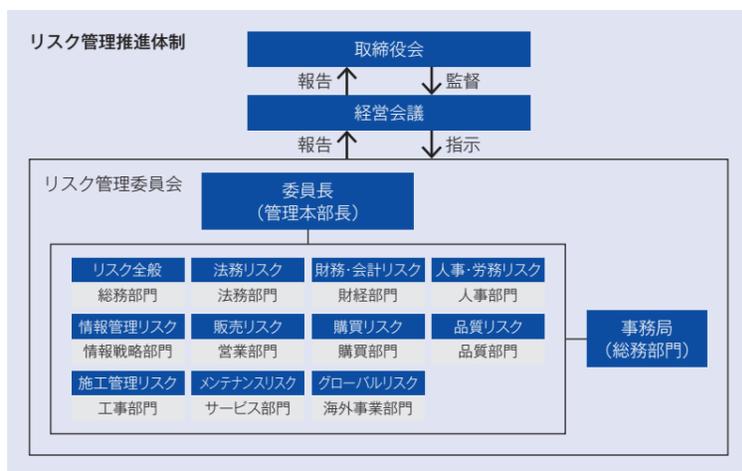
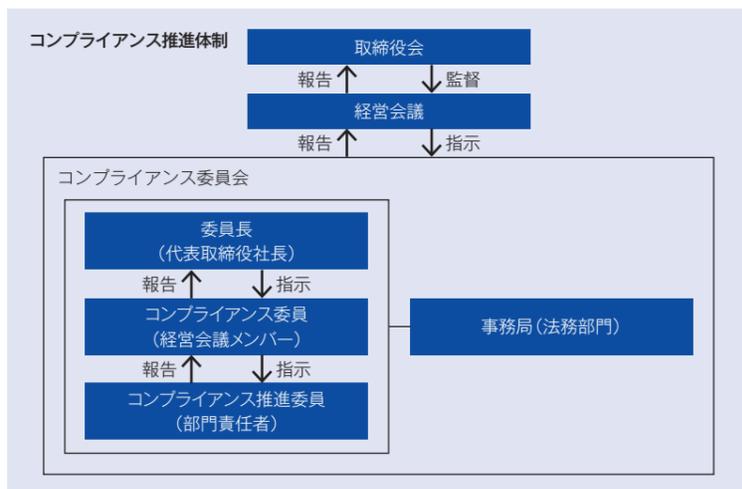
リスク管理の進捗状況については、定期的に経営会議、取締役会に報告されます。

基幹システムの刷新

グループの規模拡大に伴い、2022年秋に国内グループ各社の会計領域において、「SAP S/4 HANA」およびSaaS型分析クラウド「SAP Analytics Cloud」をクラウドの共通基盤上で構築しました。

従来はグループ各社で別々の会計システムを採用しており、連結決算やグループ管理において非常に非効率でしたが、会計基盤を共通化することにより、データの一元管理が可能となりました。

導入直後は一部業務においてSAPで対応できず、運用手順が複雑化するなど試行錯誤をしながらの運用でしたが、現在は新たなプロジェクトを立ち上げ、共通基盤を活かした決算財務報告の早期化など本来の目的である「経営・業務の効率化」、「経営の意思決定の迅速化」を目指し取り組んでいます。



会社概要・株式情報

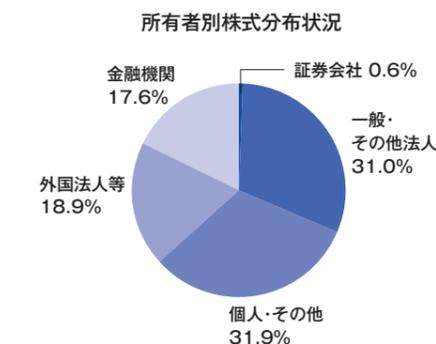
会社概要

商号	フクシマガリレイ株式会社
設立	昭和26年12月8日
資本金	27億6千万円
従業員数	連結:2,388名 単体:1,843名 (2023年3月現在)
本社所在地	〒555-0011 大阪府大阪市西淀川区竹島2-6-18
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード:6420)

株式情報 2023年3月現在

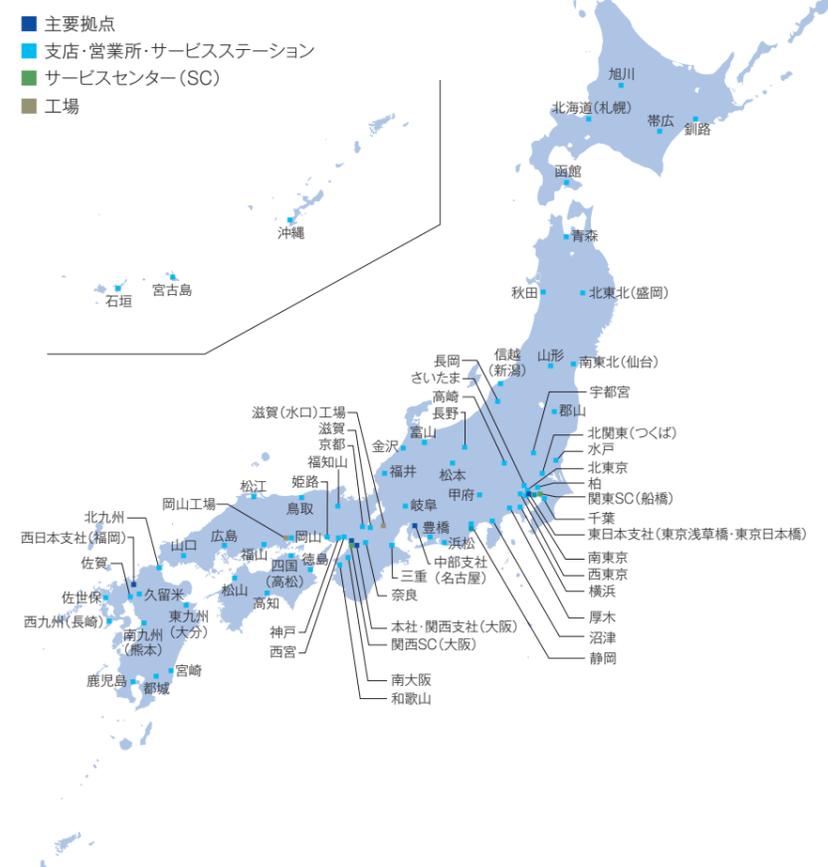
発行可能株式総数、発行済株式総数、株主の総数

発行可能株式総数	63,685,000株
発行済株式総数	22,066,160株 (自己株式2,003,002株を含む)
当事業年度末の株主の総数	3,169名



事業所・グループ会社一覧

事業所一覧 (2023年11月)



グループ会社一覧

- ガリレイパネルクリエイト株式会社
- タカハシガリレイ株式会社
- ショウケンガリレイ株式会社
- フクシマトレーディング株式会社
- ガリレイ(タイランド)株式会社
- 福島嘉利雷冷機(上海)有限公司
- 福島国際(香港)有限公司
- 台湾福島国際股份有限公司
- フクシマガリレイシンガポール株式会社
- フクシマガリレイタイランド株式会社
- フクシマガリレイベトナム有限会社
- フクシマガリレイマレーシア株式会社
- フクシマガリレイカンボジア株式会社
- フクシマガリレイインドネシア株式会社
- フクシマガリレイミャンマー株式会社
- フクシマガリレイフィリピン株式会社